

特 232  
161

偉人  
伊藤公ノ理想

1541



1

0002756-000

特 2 3 2 - 1 6 1

偉人伊藤公の理想

佐藤板治・著

南欧社

昭和 3

ABA

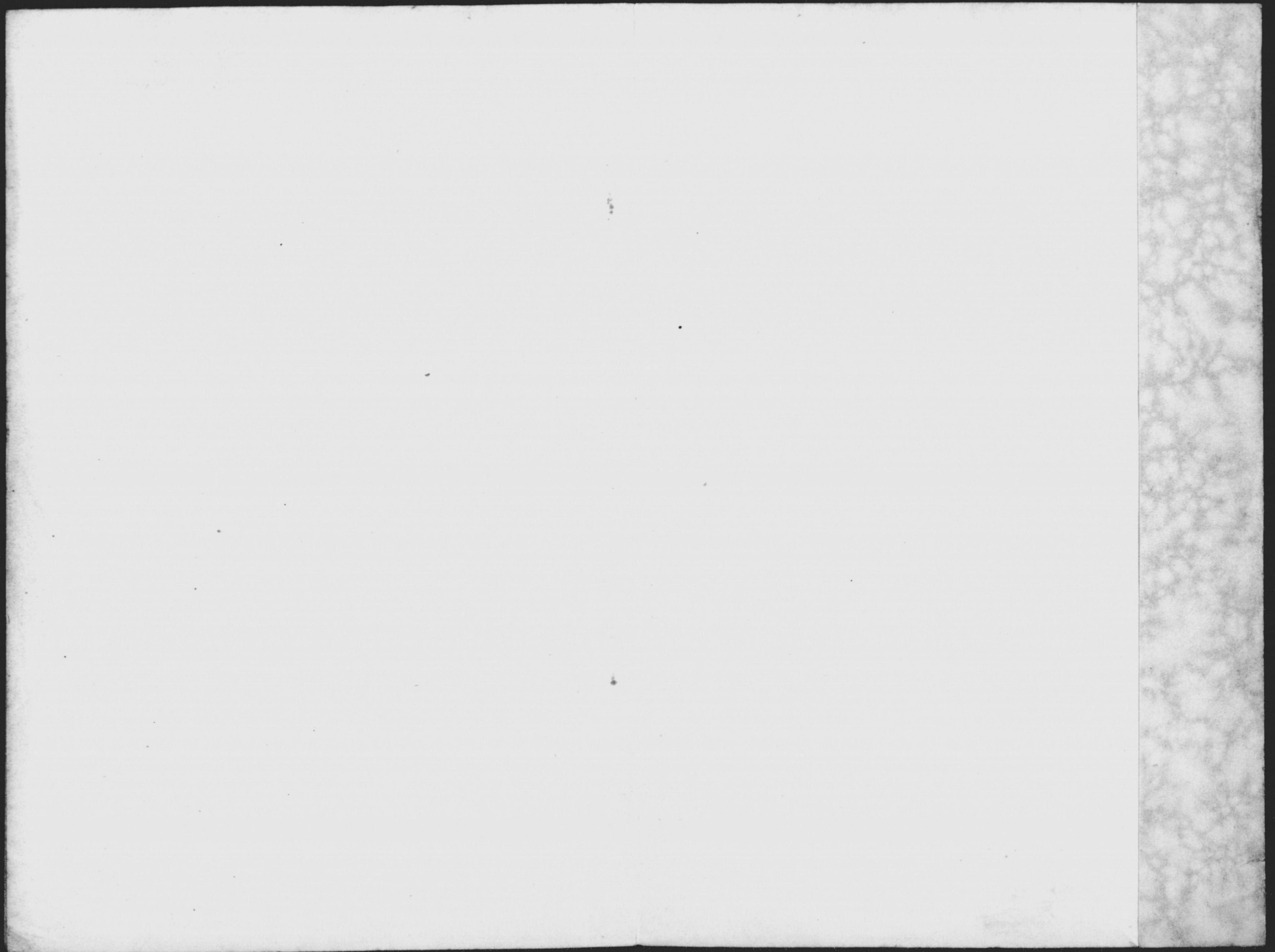
この著作物は、著作権者不明のため、著作権法第67条の規定に基づき、平成12年3月14日付で文化庁長官の裁定を受け使用するもの

特 232

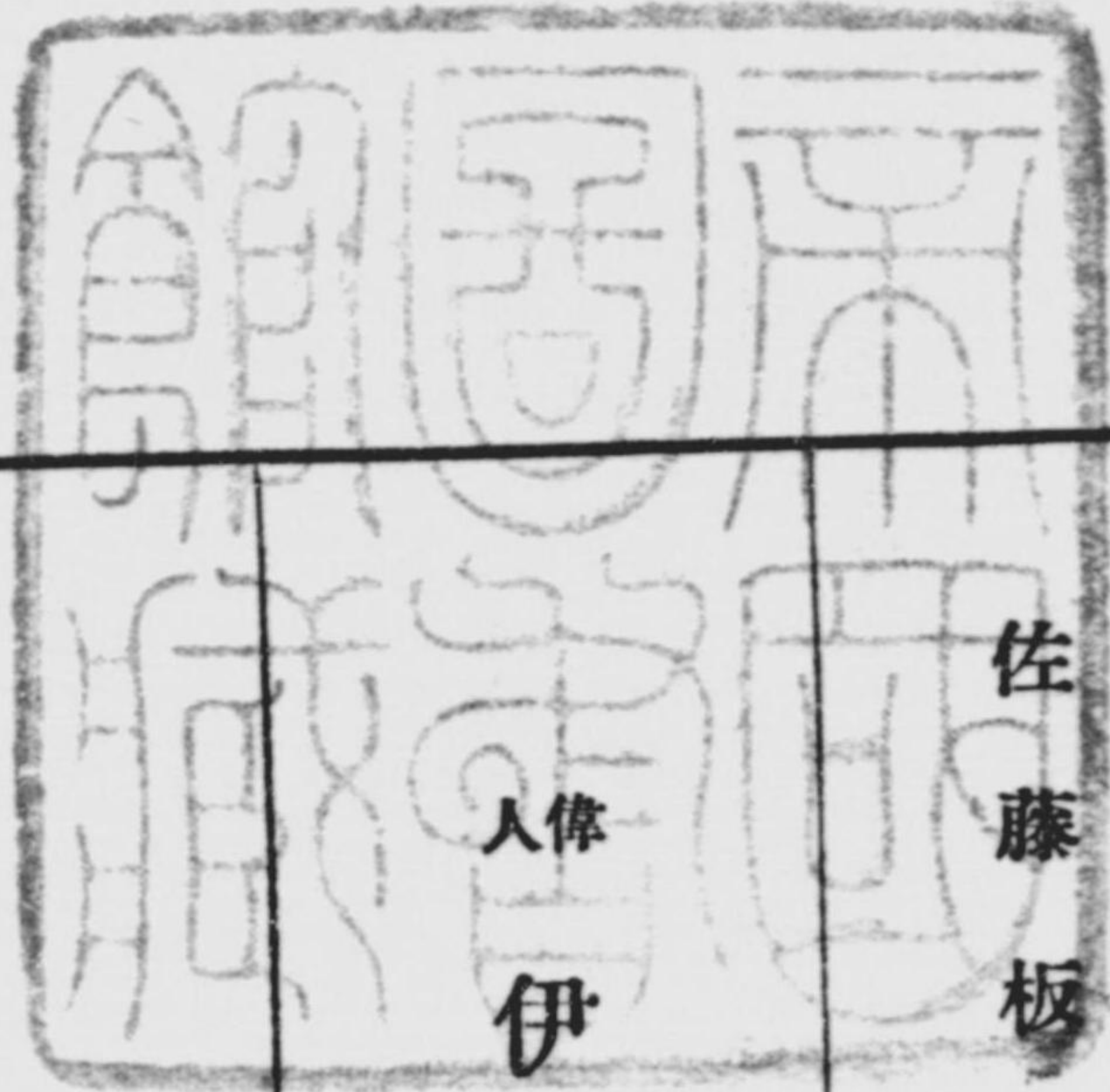
161

人<sup>偉</sup>伊藤公理想

1541



特232  
161

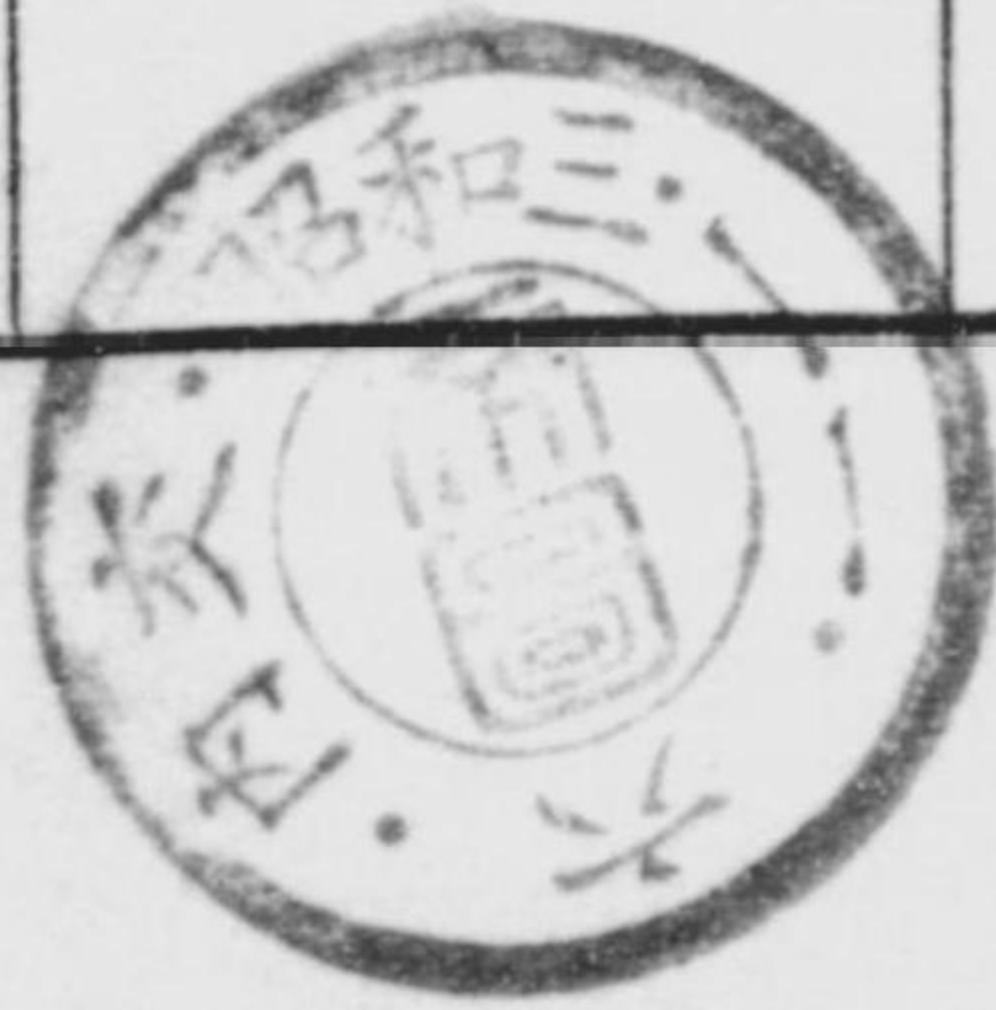


佐藤板治著

人傳  
伊

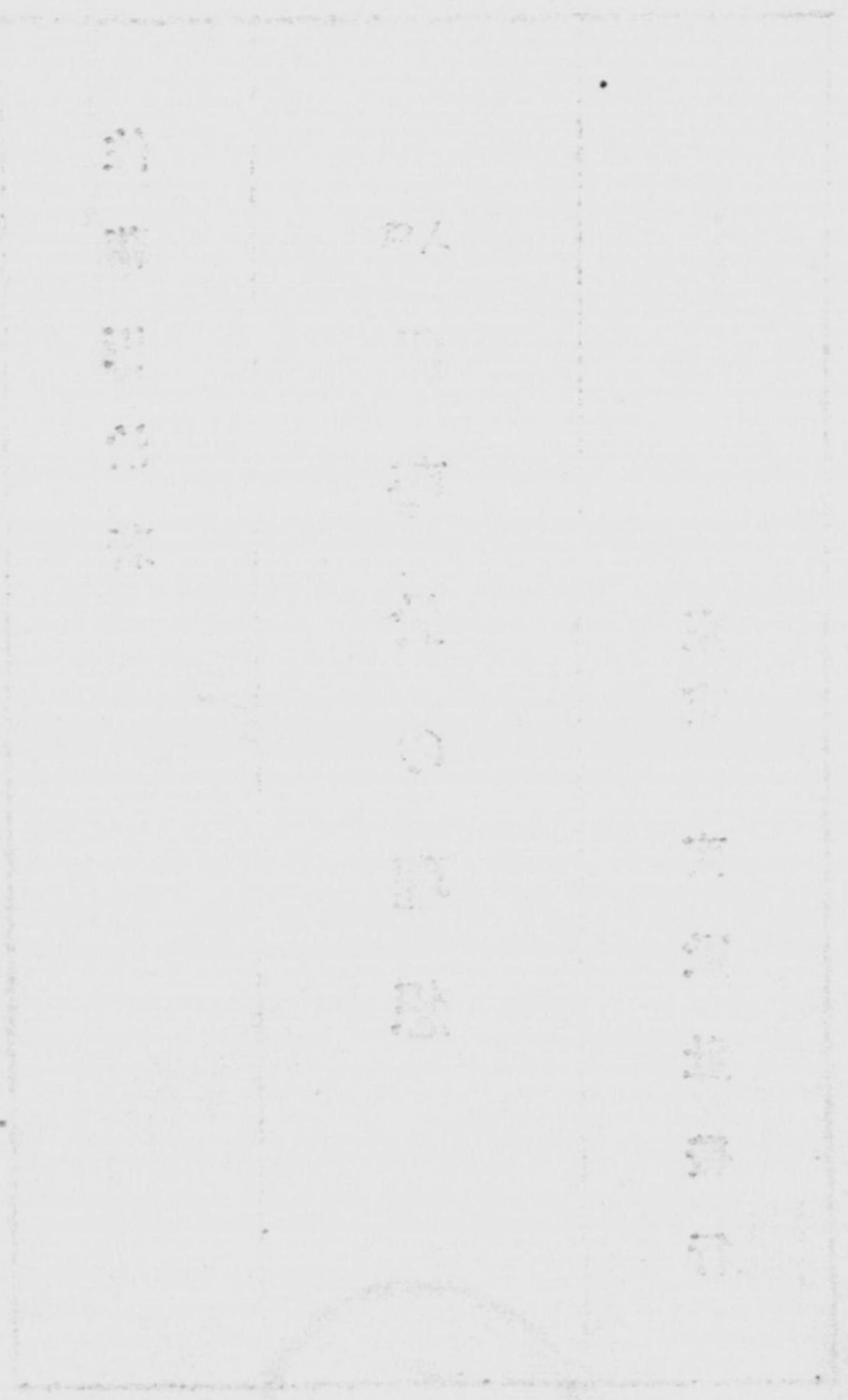
藤公の理想

東京南歐社發行



明治大帝御製

古の文見ること  
に思ふかな  
おのが治むる國  
はいかにと



(明大治帝ヨリ伊藤公ニ賜ハシテ元大森恩賜館)



憲法記念館本館



同 上 正 門

### 五箇條ノ御誓文

明治元年三月十四日 天皇祖宗ノ神靈ニ誓ヒ大ニ國是ヲ定メ給ヘリ即チ

一、廣ク會議ヲ興シ萬機公論ニ決スヘシ

一、上下心ヲ一ニシ盛ニ經綸ヲ行フヘシ

一、官武一途庶民ニ至ル迄各其志ヲ遂ケ人心ヲシテ倦マザラシメン事ヲ要ス

一、舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クヘシ

一、智識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基を振起スヘシ

我國未曾有ノ變革ヲ爲サントシ 朕躬ヲ以テ衆ニ先ンシ天地神明ニ誓ヒ大ニ斯國是ヲ定メ萬民保全ノ道ヲ立ントス衆亦此旨趣ニ基キ協心努力セヨ

## 序

中央大學學員佐藤板治君は篤學にして憂國の士なり、今や我國思想界混沌として頗る險惡を極む、君乃ち起つて偉人故伊藤博文公の小傳を作り其思想を傳へ、以て國民の向ふ所を明かにせんとす、本書即ち是なり。顧ふに此書獨り公をして益々光輝あらしむるのみならず、その國家世教に裨補する果して何如そや、一言以て序となす。

昭和參年拾月

法學博士 馬場 愿 治

## 自序

明治三十六年二月の或日曜日であつた。私は大森の八景園に梅見としやれ込んだ、處が梅見などと曰ふと馬鹿に呑氣で悠長な様だが、實は當時私は白面の貧書生で、古びた木綿紋付と破れ袴と曰ふいでたちで、當日は勉強に疲れた頭を休むべく、ブラリと牛込から新橋(今の汐留驛)迄テクツて、それから大森まで汽車に乗つて行つたのである。今から考へると當時は随分不便なものだつた。約一時間ばかり遊んで、歸途大森驛のプラットホームに汽車の時間を待つ間、家を出がけに持つて行つた「近世外交史」を讀んで居つた。當時自分は外交官を志して居たとは曰ふものゝ、何と曰つても未だ肩あげをした中學の三年生である。恰度其時である、小柄のフロックを着た老紳士がお供を一人連れて同じくプラットホームに入つて、汽車の時間を待つべく漫歩しながら僕が讀んで居る外交史に目を付けた。暫くシロく見て居たが、いきなり傍に来て

「君は何處の學校に行つて居るか」と聞いた。

1 「日比谷中學校です」と答へると



「フム將來何になる積りだ？」

「外交官を志して居ります」と曰ふと

「シツカリ勉強して目的を達する様に」と曰ひ放つて又漫歩を初めた。お附の人は私の所にやつて来て、あれは伊藤公だと注意があつたので、初めてそれと知つてツク／＼其風貌に接したのである。吾人の伊藤公と會つたのは此時が始めてであり、その當時受けた印象は約三十年を過ぎた今日、尙ほ且つ其記憶が新である、粉骨碎身全生涯を國家の爲めに捧げた、公に對しては敬慕の念禁じ難く、世人からも漸く忘れられんとしてこの偉人の俤を偲ぶよすがもない。明治四十二年十月廿六日遠くハルビン驛頭に最後を遂げられてより早くも二十年、世は方に昭和の聖代となつたが、未だこの俊傑の理想を不朽に傳ふべきものはないのは實に遺憾至極である。之れ吾人が筆才をも不願筆を起さんと決意した所以である。

菊花薫る今秋は、國民歡喜の裡に曠古の御大禮が擧げられるのである。公の靈魂は在天の 明治聖帝の英靈を仰いて、寶祚の無窮を祈り且祝福して居られるであらう。此の大偉人の理想を知り之を永遠に傳ふるのが吾等の責任であり、今が千載一遇の秋である。

若し夫れ八千萬國民諸氏が、この公の理想を充分味ひ體得せられたならば、必ずや公は地下に於て大なる満足を得られる事と思ふ。吾人も亦實に本懐に堪へない所である。尙伊藤公の傳記等は他の著述に就て併せ見られん事を望む。

此機會に於て、元朝鮮平安北道知事川上常郎先生及令弟川上繁治氏の著者に寄せられた肉身も及ばざる御厚情に對し感謝の誠意を捧げ、本書刊行に多大の援助を與へられた政治教育協會幹事長女屋誠一郎氏並に知友牧繁夫氏に對して滿腔の謝意を表す。

昭和三年仲秋

著 者 識

目次

1

- 第一 明治政府秘中の秘 (一)
- 第二 大政治家の資格 (一)
- 第三 伊藤公の一大理想 (三)
- 一 憲法と法治國との關係
- 二 憲法政治と法治國
- 三 權利自由の眞意義
- 第四 法治國の三大要件 (五)
- 一 地方制度
- 二 陪審制度
- 三 法典編纂
- 第五 周密なる伊藤公の計劃 (九)
- 第六 法治國と治外法權 (一〇)
- 第七 計劃の逆轉と公の活眼 (一一)
- 一 憲法起草に對する伊藤公の苦衷
- 二 憲法の明文と所謂權利自由

第八	憲法の解釋と人權蹂躪	(一五)
第九	議論の沸騰と明治大帝の御親諭	(一六)
第一〇	秘密の暴露と其術策	(一七)
第一一	權利自由に對する法律と倫理との關係	(一七)
一	穂積博士と憲法講座	
二	形式憲法と官僚學	
第一二	秘密政策と國民道德	(一九)
第一三	治外法權撤去と二大戦役	(一九)
第一四	權利自由に對する國民の無自覺	(二〇)
第一五	突發したる重大事件	(二〇)
第一六	引續く不祥事件	(二一)
第一七	議會政治と政黨屋	(二二)
第一八	權利自由と選舉權の行使	(二四)
第一九	新唯心論の勃興	(二五)
第二〇	普選初頭の帝國議會	(二六)
附錄	伊藤内閣一覽	(二七)
	憲法條文拔萃	(二八)

# 偉人 伊藤公の理想

佐藤板治

## 一、明治政府秘中の秘

嘗て尊王愛國の主動地として誇つて居つた防長二州はさすが幾多有爲の大人物を出して居る。其内明治維新に於ける大政治家としては先に木戸公、後には伊藤公を推さねばならない。而して憲法制定當時に於ける、明治政府の秘密中の秘密は之等長州系の一二人物のみの胸中に奥深く藏せられて、伴食先生は勿論のこと、普通一般の大臣さへ之を知ること能はざるものであつたが、時勢は一變して今は吾人が之を口外することが出来る世の中となつたのである。

## 二、大政治家の資格

茲に政治家と曰ふは所謂「ステーツマン」、(經世家)の意味で或局限せられたる範圍に於てのみ深き狭き智識を有する専門家、即ち法律學者、公法家、經濟學者、倫理學者、

歴史家、文學者を指すものではない。況んや新聞學問程度の職業的政治屋を包含するものでない。大工、左官、疊屋のみの一人が一家屋を建造する事が出来ぬと同様、所謂専門家なるものは國政を料理するの資格はない。清國の滅亡は所謂専門の弊で一人だに死を以て清朝に殉じた志士のないのも之が爲である。碩學余心孺が統體智識の必要を痛説したのも之が爲めであつた。専門の狭き深き智識なきも各種の専門を概括した此統體の智識を有せる人が即ち眞の政治家である。政治家としては實に伊藤公を推すの外はない。公の其の崇高なる精神に對しては洵に感嘆措く能はざるものがある。

### 三、伊藤公の一大理想

然らば伊藤公の一大理想は如何なるものであつたか、公は明治維新の大業を繼ぎ王政を文明制度の基礎に置かんとしたので公の主義として唯心論者 (Idealist) なりしは疑を容れぬ所である。即ち唯心論は所謂積極的道德主義で精神的向上發展を目的とし各人は其心から忠君愛國の誠を致すべきものとする。之れに反して所謂唯物論 (Materialism) の消極的道德は唯だ上より下に屈從を強ゆる所の退嬰主義である。下僚は長官以上の技能を發揮することを禁せられ、學生は教師以上の智識を有すること能はざるものとするの

である。之れを政治上に見れば、憲法政治は積極的道德主義の一顯象で國民が自ら進んで皇室の安全を永遠に期し自ら進んで國家の隆盛進運を期するのである。之れに反し專制政治は消極的道德主義の一顯象で國民をして、喰つて寝て糞する機械たらしむるのである。一國內の秩序安寧を維持するには此上もなき便利至極の政治と云はねばならぬが苟も國を開いて萬國の班に列する以上は國民の向上發展なくして到底其一國の獨立を全ふする事の出来ない事は云ふ迄もない。茲に於て伊藤公は所謂開國進取の方針に基き憲法政治の已む可からざる所以を看取した。然らば即ち公の計劃はどうであつたか、公は憲法と憲法政治とを混同するものではなかつた。公は憲法の明文ありとも之を以て直ちに憲法政治が行はるるものと考へたのではない。公は憲政發達の徑路如何を研究した。公は憲政實施に先つて所謂法治國を形成するの必要あることを看取した。即ち法治國を形成するとは法律を以て國民に公法上の權利自由を附與する謂である。而して權利自由なるものは往々にして個人主義、我儘主義に悪用せられ、大の字に寢轉んで欠伸をするのが吾人の權利自由だとも誤解せられたが、本來權利自由の有無が所謂唯心論 (idealism) と唯物論 (materialism) との岐るゝ所である。

權利自由は向上發展を目的とする精神力、活動力で自ら進んで君國の爲に至誠を致さんとする高尚崇宏の觀念である。此高尚崇宏なる觀念なき人民は即ち唯物論の物質主義肉欲主義で腐敗墮落を免れぬのである。

國民に權利自由なければ國民が向上發展の活氣を養ひ自ら國事に任ずること能はざるは唯心主義の積極的の道徳の明認する所である。

憲法は憲政の形式外貌であつて、法治國は實體精神である。今日の法律家や政治家が苟も成文の法律あれば其の内容如何を問はず、否其の内容は權利自由を剝奪したるものたるに拘はらず、直に之を法治國だと誤解するに至つては笑止千萬である。

公は正確に法治國の何者たるかを了解した。公は此權利自由を有する國民にして始めて立憲的國民たるを得べく、此立憲的國民にして始めて立憲的政黨を組織し得べく此立憲的政黨あつて始めて立憲的内閣たるを得べきものと考へた。故に公は憲法の制定に先つて法治國を形成せざる可からざるものとなし而して其法治國たるに必要な國家の根本法律を以て、地方自治制度、陪審制度、及法典編纂の三大事業にありとした。而も今日の法律家や政治家は其の根本精神を忘却し是等の諸法律が憲法政治と如何なる關係に

立つかを知らざる者比々皆是である。茲に其の大意を説かねばならないが。

#### 四、法治國の三大要件

##### 1、地方制度

(一)、地方制度は國民をして地方自治の行政事務を實驗せしめ、權利自由の何物たるかを知らしめ以て國政に參與するの能力を發揮せしむる所以のものである。此點に就ては世人も普通一般の理論として夙に了解し得る所なるが地方制度の内容如何に至りては徒らに枝葉末端を見るに過ぎぬ。此事に就ては何れ概論する機會もあらう。

##### 2、陪審制度

(二)、陪審制度と憲法との關係は公が最も研究を重ねられたる所で今日の學者の方角違ひの皮相觀と大に其趣を異にして居る。公は國家の裁判事務なるものは事實と法律との問題に一大區別の存するものあり、事實認定の機關は當然裁判の機關にあらざる所以を明瞭に看取した。蓋し裁判は單に既に確定したる行爲事實に法律を適用宣言するまでのものに外ならざるは國法の原理原則である。人は意志の主體である。人の行爲は其意思の發顯である。獨斷裁判制度の下に併せて此事實をも認定するは裁判官として

人間の行爲を製造せしめ人間の人間たる資格を失はしむることとなる。或犯罪事實が其犯人の行爲なるや否やは其人自身若くは神にあらざれば之を知ることは出来ぬと云ふことは古今の通理である。裁判官も人間である。人間にして他の人間の意思を無視し意思の發顯たる行爲を製造して之に責任を負はしむるは倫理の根本を壞ち國家の人道を破るものである。

故に古來事實の問題を決する方法の沿革を見るに、

第一期は「オールナール」即ち探湯熱鐵の方法。

第二期は「ロット」即ち抽籤の方法。

第三期は「チャンピオン」即ち選手の勝敗に依るべきものとした。是事實の問題は神の裁斷若くは偶然の事爲に委するの外は無いとしたからである。

第四期に至りて被告人自身が其行爲を自認するを待つて始めて法律の適用を爲すべきものとなし所謂口供裁判の制度を成立するに至つた。是こそ國家の人道を一貫するに於て理想の方法たるに相違ないが必然之に伴ふべき拷問制度は手段として野蠻たるを免れない。是に於て

第五期の陪審制度に入り第四期に於ける糾問官と被告人との自認主義の個人的關係を公法上に移し之を國家と人民との關係に立たしめ事實の承認を人民自身に一任し裁判官をして其事實の上に法律を適用宣言せしめ以て國家の人道を全ふすべきものとしたのである。是事實の問題は行爲者其者の外他人が之を決定し能はざるものたるが爲である。故に陪審制度の目的は

第一、國家の人道を確立し

第二、天皇の神聖不可侵の原則を一貫し

第三、臣民の各種の權利自由を確保し

第四、裁判權の獨立を確實ならしめ

第五、國民をして同胞の無辜に泣くものなきや否やを監視せしめて同胞心、公德心を養成し

第六、國民をして盡く犯罪の捜査機關たるの義務を負はしむる等にある。

陪審制度が憲法と一大關係を爲すものなること亦明白である。然るに現代の形式的職業的専門的法律家は却て陪審制度の目的を正反對に人類が事實の絶對的眞實を發見し得

るの具と誤解し獨斷裁判制度の重大なる幾多の弊害あるを度外視し冤罪の類々たるものあるも其責任の歸着する所如何を知らず事實問題は國民をして自ら之に當らしむべき所以を知らない様である。

幸伊藤公歿後二十年を経た昭和三年十月一日からこの陪審法が實施せらるゝ事となり公の理想の一端が實現して、公も地下に於て嘸満足して居られる事と思ふ。

### 3、法典編纂

(三)、法典編纂就中刑法及刑事訴訟法は英國の所謂人身保護律にも相當すべきもので臣民の權利自由を確立する法律で憲政と重大關係を有すること勿論であるが今日の議會は之を輕視すること土芥の如くである。

右等の法律制度の下に臣民の權利自由が完全に確立せられ國民が此權利自由の實生活に入り初めて憲法政治が行はれるものである。漢の高祖は天下を取つて長樂殿に諸侯群臣を朝せしめ朕初めて皇帝の貴きを知ると云つたが、國民も亦權利自由の實生活に入つて初めて國民の貴きを知るのである。眼中國民なきものに何んぞ國家の政務が託せられやうか。近來の識者と云はるゝ者も往々國民の權利思想の乏しきを歎して權利思想を養

成するの必要を高調するが、法律制度の上に國民が權利自由を獲得して其の實生活に入り茲に初めて權利思想が生ずるのである。口先きの講釋のみで權利思想を養成し得らるべき譯合がない。

### 五、周密なる公の計畫

伊藤公の計畫は斯の如き者であつた。公は斯の如き計畫で法治國を興して後に憲法政治を立て茲に初めて我維新大業の局を結ぶべきものとされた。而も之を王政復古の大業を成した人士の手で完成し後事は之を一般國民の力に待たんとしたのである。當時日本の政權は薩長土肥に分掌せられ殊に司法部は土肥の二藩に一任せられたるに拘はらず、地方制度は山縣公の手に委せられ、司法部の專屬たりし陪審制度及法典編纂は山口出身の山田伯の手に移され、公は自ら憲法の起草に任じたのである。維新の大業も是に於て始めあり終りあると云ふことになる。偉なる哉公の抱負、大なる哉公の計畫諸君は之を何とか見る？ 公の計畫は着々其の歩を進め地方制度も刑法も實施せられ陪審制度も己に元老院の確定議を経て將に發布せられとするの氣運に至つたが、公は流石に政治家である。即ち日本の世界に於ける地位と日本當時の國情とは遂に公の着眼する所となつた。

公は當時日本に治外法權なるものがあつて日本は憲法政治を行ふには未だ嘗て歐洲文明諸邦の經驗せることなき至難の國情に在ることを看破した。

#### 六、法治國と治外法權

公は日本の現状が一種の變態時代に屬することを看破した。己に憲法と法治國との關係を詳盡した、伊藤公は、更に法治國と治外法權との關係を研究するの必要に迫られた。公は法權の獨立せざる邦國に法治國の立てらるべき理由がないと斷じたのである。國際法上治外法權を以て古來有名なる土耳其が法治國を立て得ざる實況は忽ちに公の注目を惹いたのである。

伊藤公の大森の恩賜館（現在憲法記念館）に於ける公の書庫を一見したものは、公が當時の胸中の苦悶を分つに於て無限の感慨に打たれたであらう。當時治外法權撤去の聲は朝野を動かしたものだが一亘條約上相互の合意で成立したものは低頭平身此方より哀訴歎願御機嫌を伺ひ奉るより外はない、先方の申分は兎も角も唯々諾々御受けするの外はない。外交の如きも西歐諸國相互の間には己に國民外交の時期に入りながら東洋に關しては西歐より露國及日本に對する特別秘密の外交方針があつた。日本は自殺的に自己に對

する此西歐の外交方針に従ふの外はない。内に對しては專制以て人民の不平を抑制して外交團に媚を呈するの外はない。司法權の獨立どころか内外人交渉事件の裁判は公然内閣の裁可を要するので、毎度ながら外人の勝訴にせぬとトテモ外交團で治外法權撤去の相談相手をするものでない。歸する所當時は專制的秘密政府にあらざれば外に對して自由自在の手練手管を施すに餘地がない。專制政府にあらざれば内に對して國民の排外熱や不平を壓迫する譯に行かぬ。茲に具體的に其内情を發くの要もないが、此時代に法治國が興されるものでない。憲法政治が行はるべきものでない。

#### 七、計劃の逆轉

於是伊藤公の計畫はガラリと一變した。既に實行されたる刑法は忽ちに之を專制的方針に改正すべく之に着手されたが民論の反抗の爲に遷延し其後松田正久男が政友會の多數を率ゐて司法大臣たる時に其改正法が成立したと云ふのも不思議な現象である。又草案の完成したる儘なりし陪審制度は内閣の決議と云ふ一片の命令で忽ち中止せられて、山田伯は司法大臣として何等の理由を示さず其を部内に令達した。（之も昭和三年十月から愈々實施を見る事になつた）。地方制度も實施せられたが幸か不幸か所謂地方制度は全



國を一定の模型に倣ひ込んだもので自治制度どころか一種の壓迫制度であつた。全國を基盤の目に割付けて之を町村として、此上に郡此上に縣と劃一主義と段階主義とを一貫したものである。然るに此基盤の目の中のみを流るゝ川もない。此基盤の目の中のみで用立つ道路もない。此基盤の目の中のみを區劃して押寄する傳染病もない。町村に自治の行政が行はるべき筈がないではないか。所謂模範町村なるものは偶然にして此基盤の目が水利等の面倒なき豊富の地域に割り當てられる迄である。内務省も省令や訓令で地方制度の弊を救はんと企てたが膏藥貼の小細工に過ぎぬ。地方制度の改正に就ては種々意見もあるが一朝一夕の調査で出来るものでない。郡制廢止案が幾度か議會に上り遂に大正十四年第五十一議會を通過し、翌十五年實行せられたのも地方制度の弊害が認められた一例だが、郡制のみが廢止せらるべきものでない。嘗て内務大臣外二大臣が町村費の輕減を訓令したのも亦弊害の一端を認められたものだが、劃一なる模型に倣められた町村は其模型に適合せんが爲に其費用は益々増加するばかりである。政治家は卓見らしく町村が政黨熱に侵さるゝの弊害を説くが、彼等は町村が基盤の目に區劃されたる山川草木のみで何等自治の精神なき自然界たることを自覺せぬのであらう。

### 1、憲法起草に對する伊藤公の苦衷

伊藤公の最初計畫されたる法治國は、逆戻りの體となつた憲法政治は到底望むべからざるものである。而も公は公約に依つて憲法のみは之を制定せねばならぬ。

是が公の苦心慘憺たる所であつたが公は憲政發展の順路を顛倒すると云ふ所に其活路を求め來つた。公は先づ形式の憲法を作り置き、治外法權が撤去せられ獨立國たるを得るの時を待ち後日に至り憲法の内容たる法治國を興さんと決心したのである。

公は政友會を興すに當り當時の專制治下に政黨内閣の行ふべからざる所以を認めたると同時に、其綱領中の一條に「余等同志ハ外交ヲ重ンジ文明ノ政ヲ以テ遠人ヲ倚安セシメ法治國ノ名實ヲ全フセンコトヲ努ムベシ」と明言して居る。

此綱領は殆んど公の手に成つたもので當時政友會の人士も此一條の眞義を了解し得なかつたが、其外交と法治國との關係を叙するの一段に至つて公の志は飽迄憲政濟美の實を擧げんとするに在るの至誠を永く後世に傳へたものであらう。

英明に渡らせられた 明治大帝の御信任の厚かつた事も蓋し故なきにあらずである。

治外法權の變態時代の變態政治は公の理想にあらざりしは此一事で明白である。而も公の起草したる憲法は憲法として毫末の批難すべき點はない。歐洲文明國の夫に比して何等の遜色もない。唯其憲法は憲法として形式に止まり、其實體を成すべき法治國を興すことが不可能と云ふまでである。憲法はあつても憲法政治が行はれぬと云ふまでである。

## 2、憲法の明文と所謂權利自由

元來臣民の權利自由は法律に於て確立せらるゝもので、憲法は臣民に權利自由を確立する處の法律を保證するに過ぎぬものである。憲法自身は何等直接に臣民に權利自由を與ふるものでない。見るべし憲法には正々堂々と臣民の權利自由なるものが列記せらるゝと同時に、其所謂權利自由なるものは皆法律の規定に依るべきものとせられてある。而して其所謂法律なるものを精査するに臣民の權利自由は皆無である。加之憲法制定前臣民の權利自由は豫め之を奪ひ置き以て憲法實施に臨んだのである。憲法は其實臣民の權利自由を剝奪されたる法律を保障して居ると云ふ奇現象を呈したのである。

而も憲法は憲法として完全である。憲法は臣民に與ふるに、立法參與權を以てするが

故に臣民にして權利自由を得んと欲せば法律の改正に依つて臣民より之を促し得るのだが、法律の改正は貴族院の同意を要するを以て公は貴族院の組織に甚大なる注意を拂ひ、法律の改正は政府の意の儘に貴族院で之を喰ひ止めしめんとしたのである。

公は第一議會には必ず法律改正案の續出すべきを豫知し心配で堪らず、自ら貴族院議長の席に着いたのだが國民は憲法發布の聲に酔うて其實を忘れ、何等の法律案も提出されなかつた。公は定めて氣拔けの體であつたらうが此變態時代の政策上には勿怪の幸であつた。

## 八、憲法の解釋と人權蹂躪

見來り見去れば法律上臣民には何等の權利も自由もないのである。試みに見よ、司法の有司が長年月間被告人を未決拘禁するときには民間の法曹界には往々人權蹂躪の聲が高まるが、是は動物虐待とでも云ふ方が至當であらう。法律上何年間でも一生涯でも有司の思ひの儘に人民を拘禁するの權利が有司に與へられてある。元來無き人權が蹂躪せらるゝ譯がない。

尙見るべし、今日の政治家は政府は憲法に與へられたる言論の自由を壓迫するなどい

怒鳴るが憲法は唯「臣民は法律に依り言論の自由を得べき」旨を定めたのみである。

而して其法律は何等此自由を興ふる所がない。法律上人民に言論の自由があれば政府も其自由を侵し得べき筈がない。政府が言論の自由を壓迫すると云ふ事自體が、此自由なきを立證するものである。そこで憲法の名はあつても憲法政治の實がない。法治國の名はあつても法律上臣民に權利自由はない。是が時代の必要に迫られたる明治政府の政策で秘密中の秘密に屬したものである。

### 九、議論の沸騰と明治大帝の御親諭

尤も憲法制定の際法治國の事は實に一大問題となり、委員の間にも長らく議定に至らず、議論に議論が高まり頗る險惡な情勢となつたので、畏れ多くも明治大帝より御親諭をまでも下し給うたと聞いたが議論は盡くる由なく遂に伊藤公は右の秘密の幾分を洩して納まりが付いたと云ふ事である。而も公は克く専門の人材を用ゐて遂に其所期の形式憲法を制定した。故に苟も公に對して憲法の内容實體たる法治國の未だ成らざる所以を論ずるものあるに當つては、公は心に其眞理たるを知りながら、憤然一喝之を斥けたのである。

### 一〇、秘密の暴露と其術策

ポアソナード博士は勿論、苟も此秘密の眞相に觸るゝ者は皆其地位を失つたが、是は公が涙乍らも背に腹は代へられぬ果斷に出たもので、公の心と口の先きとに表裏のあつたのは、一國の樞機を一身に引受けた公の苦衷である。公が一杯機嫌の私宴でよく歌つた「口でけなして心ではめて」と云ふ都々逸の文句は公が醉餘に端なく其眞情を吐露したものであらう。要するに公は人を使ふに時々政策を以てしたものである。公に譜代の乾兒の無いのも此故であらう。殊に公が此政府の秘密を遮掩せんが爲めに用ゐた秘策は實に巧妙を極めて居る。其最も著しきものは智識階級をして専門の馬車馬たらしむることであつた。就中最も密接の關係ある法律と倫理とを隔離することであつた。

#### 一一、權利自由に對する法律と倫理との關係

法律學者にして倫理の一端を窺ひ知り、倫理學者にして法律原理の大綱を研究せば、法律の非理非人道なる所以は忽ちに了解し得らるゝのである。そこで哲學者や倫理學者をば書物の蟲となし、法律學者を六法全書の字句の間に拘束し、二者をして没交渉たらしむるの必要がある。

唯最も困難なりしは大學の憲法講座であつたが是には故穂積八束博士をして形式憲法の講義に當らしめ其主義所説に反するものは落第の運命を免かれぬ事とした。

尤も故穂積博士は本來學生として政治科に屬し當時日の出の勢あつた外山教授一派の唯物論の直傳を受けたのである。併し博士の高潔なる人格は斷乎として自己の祖先を猿となすの説を容るゝこと能はざるのであるが時勢の思潮は之を如何ともすべからず博士は止むを得ずして熒然獨逸に遊んで形式公法學を研究したのである。博士の已に世に公にせる憲法論は即ち其一面である。近代に至り博士の本色たる新唯心論の勃興するに當り、博士は始めて形式を離れて得意の實體憲法論の方面に入るの時機に際會したのであつたが、博士の健康が已に此一大事業を完成するを許さなかつたのは博士の爲め又國家の爲に深く惜んで已まない次第である。

併し憲法は憲法である、憲法施行の當時の裁判言渡書に一々「天皇の御名に於て」裁判する旨を明記したものだ。是は法治國の内容が露現する一端となるので其後一般に廢止するに至つたが是には當時博士も同意であつたと曰ふ。

而して政府の官吏は多くは此形式憲法論の外に知る處なき大學の卒業生を採用し其長

官たるものは多くは博士と同憲時代の唯物論者であつた。前者は臣民の權利自由を奪ひたる法律を金科玉條として章句の間に小理窟を築き上げるを能事とし、後者は人間は牛馬同様、權利も自由もあつたものでないとした。之を名つけて官僚學と云ふのだが當時民間の學者も亦概ね官僚學者であつた。

現今と雖も此手合が相當あると思ふ。而も名を憲政に假り、實を專制政治たらしめんとする、政府の秘密政策は大臣と雖も伴食のものは之を知ること能はざるものであつたので次官以下凡百の官吏は政府は只專制主義を喜ぶものと考へ、其意を迎へて立身出世の途を求めたものが即ち今日官海の大立物と成り上つたのである。

## 一二、秘密政策と國民道德

而も伊藤公は此政策の爲めに國民道德を看過すること能はず、種々苦心の結果遂に之を教育勅語の一途に求めて道德論の視線を此一勅令に集中したと云ふ一段に至つては到底今人の思ひも及ばざる所であらう。

## 一三、治外法權撤去と二大戦役

治外法權撤去の政策は樽俎の間、遂に其効を奏せず國運を賭したる日清日露の二大戦

争の餘威で以て我日本をして完全なる獨立國たらしめたのであるが、是が明治時代唯一の大成功と云つてよい。そこで日本も日出度法治國を立て、眞の憲法政治を行ひ得べき時勢となつたのである。此一大新時期以來法治國形成を暗に主張した學者もあつた。彼の江木衷博士の如きも明治大帝の崩御に際し國家道德論の一書に依つて之を世に問ふたと云ふことである。

#### 一四、權利自由に對する國民の無自覺

然るに政府は既に久しく專制政治の便宜を解し、國民の心身も亦久しく專制政治に慣熟し國民は自由どころか法律制度の上に人格自身までも奪はれ意思もなく理想の實現力もなきものとなり、果ては去勢されたる牛馬に甘んずるので幾多學者の名論卓説も唯小説同様其心を樂ましむるもので之を實行すべきものにあらずとすに至つた。加之明治の初期以來日本に輸入されたる唯物論は、其果を結び桂内閣時代に至りて其旺盛を極め唯心論の伊藤公は多少失意の色もあつたと思はれる。

#### 一五、突發したる重大事件

併し多年の間憲法政治の名あつて、專制政治の實を存し法治國の名あつて國民に何等の權利自由を與へぬと云ふ表裏反覆、名實齟齬の事態は、人心の歸嚮に何等かの變動なくして終るべきでない。遂に二大事件に其衝突を見るに至つたのである。一は彼の幸徳秋水一派の大逆事件である。其真相は秘密に附せられて居るが、之が爲に 天皇は神聖にして侵すべからずてふ古今國體の一大原則が破られたるは同事件の判決によりて天下に公示された處である。一は明治大帝崩御の諒闇中に於ける彼の大正の政變である。憲政擁護を唯一の題目としたのだが其實何等擁護すべき憲政なるものなきを知らざる妄動であつた。而も伊藤公は御信任いとも厚かりし 明治大帝に先ち此二大事變を見るに至らずして明治四十二年十月二十六日六十九歳を一期として兇漢安重根の爲めに遠く朔北の野の露と消えしは何かの因縁とでも申さうか、吾人は眞に國家、民人の爲めに盡された故人となれる政治家の心事を臆ひ且當時を偲んで常に斷腸の思を繰返すのである。

#### 一六、引續く不祥事件

伊藤公逝いて早くも二十週年を迎へた。此間世界大戰の爲め我帝國の國情は全々一變した。物質主義と肉慾主義は全土を風靡し終つたのである。殊に政界の腐敗は言語に絶し利權と黨利の外には國民の利害も何もあつたものでない。而も彼の大正十二年の一大

國難たる大震災の直後惡逆無道の虎の門事件あり、今又昭和年代に及んで共產黨事件の勃發するあり、遂に普選初頭の第五十五議會に於ては思潮國難決議案外二案が提出せられたのである。

之れ何人の罪であらう爲政家の罪でなくして何であらう？。吾人は茲に普選劈頭の議會に於てなされたる演説を載せて國民の批判の資料に供する次第である。

斯の如くにして今日も尙治外法權の變則時代を其儘踏襲して益々其方向に向つて進行しつつあるのである。依然として人民に法律上の權利自由はない。人民も亦敢て之を欲する意向もない。人民自身が既に非立憲である。此人民の權利自由に基くべき政黨も非立憲でなければならぬ。内閣も亦非立憲でなければならぬ。官民上下憲政の名に酔ひ法治の名に眩して其實專制政治たるの真相に想到し得ぬのである。而も其專制政治たる真相は法治國を爲さぬに在るのだから其責任は憲法に依つて立法權を與へられたる國民にある。國民は自ら專制治下の國民たるに甘んずるのである。政黨は專制治下の政黨たるに甘んずるのである。

### 一七、議會政治と政黨屋

そこで所謂政黨なるものは此專制權力の爭奪を唯一の目的とする專制治下の私黨である。政黨は親分乾兒の對人關係で團結したる一味徒黨である。眞に國家民人の爲めに何等の主義理想も有つたものでない。縦し何等かの主義理想がありとするも是唯政權爭奪に便する申譯の手段たるに過ぎぬ。政黨は專制權の傘下に集ひ來るべき黨類である。讀者は須らく活眼を開き專制主義を以て今日の實況を觀察し來れば萬般の問題は容易に其真相を捉へ得るのである。世人は超然内閣を非立憲だと罵るが亦然りである。併し今日は寧ろ超然内閣の方がましである。憲法實施以來未だ曾て日本に立憲内閣なるものはないのである。今後も亦然りであらう。何れの時代の内閣も法律上の性質に於ては皆專制政府であるのだが世人は形式憲法の看板にのみ拘泥して未だ其真相を看破し得ぬのである。併し法律上の理想は別として事實と實際とは自ら世人の肉眼に之を認めしめざるを得ざるに至つたものか、近來政權の取引が次第に露骨に專制的になつて來た、議會の劈頭第一突然不信任案を提出し理非を言はせず此席は自らの物だ「ソコ退け」と喰つて掛ければ「何に此奴め」と解散の脊骨を參ると云ふは手ツ取り早い仕打である。

一方が内閣を叩き潰すと怒鳴れば他方は國賊を撲滅すると叫ぶ。相互に對手を犬視し

猫視する所唯物主義の實相觀を現はし來りて專制治下の政況を露出するものである。選舉も亦然りだ。專制政府が自ら其徒黨を作り專制法律の下に選舉に臨むのである。相場外れの貧弱内閣は例外として選舉の度毎に政府黨が其多數を制するのは素より當然で從來の經驗は之を證して餘りあるのである。

#### 一八、權利自由と選舉權の行使

臣民に與へらるべき各種の權利中現に法律上權利と認められたるものは今日唯一の選舉權のみであるが、既に人民に一般の權利自由なるものなければ權利自由なる精神的崇高の理想觀念もない。人民は物質欲、肉體欲の餓鬼となつて腐敗墮落に陥るの外はない。而して此腐敗墮落する人民に選舉權てふ唯一の利器を與へて專制政權の爭奪を目的職業とする政黨の乾兒を選出すると云ふのであるから、選舉界の腐敗墮落も當然である。法網益々密にして到る處犯罪ならざるはない。

普通選舉となつても尙巨額の費用を使用せる様である。而して政府が隨意に之を檢舉し隨意に之を處罰することを得るのである。選舉前に反對派の運動員を理もなく檢束して置いて選舉が終ればもう用事はない出て行けと放り出す、之れが即ち國民に人權自由

なきに原因するのであるが、國民も其の然る所以を知らないのである。只政府の反對黨たるに及んで現實觀面に不利益を感じる。餘りに毎度ながら選舉干涉の聲が高まるのだが、此意義に於ける干涉ならば是は法律上當然政府に與へられたる權利の實行である。不都合どころか是が事理の當然である。憲政の母とか選舉の神様とかの安達總務の居る民政黨が知事の古手を選舉監視員など、曰つて各府縣に派遣したが、法律上官憲に與へられた權利の實行を阻止する事は出來ない。唯新聞紙等を利用して宣傳するだけの事である。

#### 一九、新唯心論の勃興

茲に於てか苟も憲法政治の實を行はんとするならば先づ法治國を建設するの必要なる事が明白したであらう。伊藤公の唯心主義が千古の通義たることが明白したと思ふ。今日に於ては法治國の設立に反對する内閣こそ非立憲と云ふべきである。併し伊藤公時代の唯心論は所謂舊唯心論で權利自由の基礎觀念が空想の上に立てられたが爲に科學の進歩と共に唯物論に壓倒せられた。今日の學者政治家も唯心論を以て陳腐の舊思想と罵り去るものもあるが進歩の上にも進歩はある。近代科學の進歩は益々其蘊奥を極め宇宙に物

質なるものなしと断定するに至りて此科學の基礎に立てられたる新唯心論が勃興し權利自由を以て向上發展の精神力、活動力と解するに至つた此に於て唯物論は今日に於ては陳腐の舊思想とせられ所謂西洋中毒は此唯物論の肉欲主義たりしことも明白した。

而して新唯心論は物理學の根柢をも顛覆したので從來古風の普通學の智識では頗る之を解するに困難である。併し新舊唯心論の差は學理上其基礎觀念を異にするまでに止まり實際の施設に於ては大なる相違はない。故に歐洲文明國が舊唯心論時代の所謂政治的立法に依り既に建設し了りたる政治上の權利自由に關する法律制度は唯物論の爲め何等の影響を受くる事なくして今日に至り、今や進んで人民に社會的權利自由を與へんとするので所謂社會的立法の時代に入つたのである。

## 二〇、普通初頭の帝國議會

我憲政史上一時期を劃した普通選舉が昭和三年二月二十日各國環視の元に實行せられ愈々國民の多數が其の正當の主張を政治上に具現するの途は開かれたのである。然るに普選の結果は朝野兩黨の勢力伯仲せし爲め今年四月二十日召集せられた普選劈頭の第十五帝國議會に於ても依然として朝野兩黨共に政權爭奪、黨利黨略、議員の誘拐に没頭

し日も亦足らざるの状態で、眞に國家民人の爲めに盡す代議士果して幾人を數ふべきであらうか、全く國民の期待は遂に裏切られたのである。

之れ何人の罪であらうか、政治家の素質の低下も一大原因たると共に又一面之を選ぶべき國民の政治智徳と責任政治たるの自覺に乏しき事も其の原因の一端を成して居るのではなからうか、唯五十五議會に於て尾崎行雄氏等が思想的國難、經濟匡救、内相處決々議案を提案し、其説明演說に於て朝野兩黨に向つて痛烈に攻撃の一矢を放つたのは近來の痛快事である。吾人は本書公刊に當り特別議會の記事を抄録して現代政治社會の實情を明かにし聊か國民の覺醒を促さん事を冀ふ次第である。讀者諸氏が此議事録を讀了せられたならば必ずや吾人の所説を肯定せらるる事と思ふ。

願はくは世界に冠絶せる我帝國の將來を慮り又吾等自らの福祉増進の爲め最も嚴正公明なる權利と主張とを議會に反映せしめられん事を切望してやまないのである。

### 特別議會の經過

四月二十日 召集せらる

四月二十一日

成立

議長 元田 肇  
副議長 清瀬 一郎

議長 元田 肇  
副議長 清瀬 一郎



四月二十三日 開院式

四月二十五日 開議 内閣總理大臣及大藏大臣の演説

御大典豫算案の可決

思想的國難に關する決議案(可決)

四月二十六日 國務大臣の演説に對する質疑

演説者 齋藤隆夫、横山勝太郎(略)、武藤山治(略)、西尾末廣、椎尾辨匡(略)

四月二十七日 同 右

演説者 中西六三郎(略)、鈴木富士彌(略)

議場混亂し議院法第八十八條に依り議事中止す(午後八時五十七分散會)

四月二十八日 同 右

西岡竹次郎氏が一身上の釋明(略)

決議案(内相の處決其他に關する件)

決議案(經濟匡救の件)

決議案(内閣不信任の件)

右提案せらる。

自四月廿八日 至四月三十日 三日間 停會

自五月一日 至五月三日 三日間 停會

五月四日 決議案上程、國務大臣の演説に關する件

五月五日 議會停會に關する緊急質問其他

民政黨提案内閣不信任決議案 否決

五月六日 會期終了散會を宣す

五月七日 閉院式

昭和三年四月二十五日(水曜日)午後一時十七分開議

○議長(元田肇君) 是より會議を開きます、御諮りを致すことがございます、豫算委員長より、本日午後二時より本會議中豫算委員會を開きたいとの申出がありました。之を許可して御異議はございませんか

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長(元田肇君) 御異議ないものと認めて之を許可します。尙ほ各常任委員長より、短期の議會でありますからして、今後本會議中と雖も開會致したいとの申出があります、之を許可するに御異議はございませぬか

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長(元田肇君) 御異議ないと認めまして、許可することに致します、田中内閣總大臣及三土大藏大臣より演説の通告があります、此際發言を許します、田中總理大臣

1、田中内閣總理大臣及三土大藏大臣の演説

〔國務大臣男爵田中義一君登壇〕

○國務大臣(男爵田中義一君) 諸君、新選舉法の下に行はれました總選舉の結果當選の榮を荷はれたる諸君と相見えて、茲に現下の國務に關して御協賛を願ひますのは、私の最も光榮とする所であります、昭和三年度豫算は第五十四議會解散の結果不成立となりました爲に、政府は憲法の條章に依り、前年度豫算に基いて實行豫算を編成致したのであります、大禮に關する經費は曩に其一部分を昭和二年度追加豫算として御協賛を仰ぎ

ましたが、今回は全部の豫算を提出して御協賛を願ひます、追加豫算は會計法の規定に従ひ、必要缺くべからざるもののみを提出致したのであります。何卒慎重に御審議の上、御協賛を與へられんことを望みます、隣邦支那の形勢が遽に急を告げましたに付、我が在留同胞の生命財産を保護するが爲に、陸海軍一部隊を山東に派遣することに相成りました、固より我が軍隊の派遣は、居留民保護の爲め必要已むを得ざるに出でたるものでありますから、山東地方の形勢が其必要を認めざるに至りました場合には、直に撤兵すべく已に此旨を中外に聲明致した次第であります。尙ほ此機會に於て私は最近發生致しましたる不祥事件に就て一言致したいと存じます、事件の概要は既に政府に於て發表致したる通りであります、詳細なる點に至りましては、更に司法當局の審理に待たなければなりません、要するに組織的計畫を以て暴力革命に依り、金匱無缺の國體を變革して勞農級專制の政府を樹立せんとするもので其惡逆無道言語に絶したる不祥事であります。吾々は之に關して重大なる責任を感ずると共に、畏多くも 皇室竝に 皇祖皇宗在天の御威靈に對し奉り恐懼に堪へないのみならず、又實に吾等國民の祖先に對して慚愧に勝へない次第であります、政府は固より寸毫も假借する所なく、斷乎たる方針を以て是等

の逆徒を處分致しますると共に、此の如き事件の由つて生ずる所の原因を究め、各方面に互つて出來得るだけの施設と用意とを盡し、拔本塞源の途を講ずる考であります。(拍手起る) 併ながら思想を正しくし精神を作興すると云ふが如きことは、獨り政府の力のみを以て能くすべき所ではありませぬ、朝野一致して國民の精神的總動員を行ひ、全幅の精力を傾注して、始めて其目的を達成することが出來ると信するのであります、私は忠無誠比なる我が國民の熱烈なる愛國心に訴へ、諸君と共に努力盡瘁致し、斷乎として此の不祥事を根絶致したいと存するのであります(拍手起る)

○議長(元田肇君) 三土大藏大臣

〔國務大臣三土忠造君登壇〕

○國務大臣(三土忠造君) 諸君、茲に昭和三年度追加予算を説明致しまする光榮を有するのであります、昭和三年度歳入歳出總予算は衆議院解散の爲め、不成立となりましたる爲め、憲法の條章に基き前年度予算を施行することになりましたが、政府は此施行予算の範圍内に於て實行予算を編成し、不成立予算に計上したる事項にして施行予算の範圍内に於て實行し得べきものは、成るべく之を實行予算に計上することに致しました。

而して大禮に關する經費、當然の増加及既定計畫遂行等の爲め必要避くべからざる經費は、之を追加予算として茲に諸君の御協賛を求むる次第であります、尙ほ追加予算を要求したる事項に付ても、其經費の一部は施行予算の範圍内に於て支辨し得るものがありまして、其金額は追加予算の成立を俟つて實行予算に追加する積りであります、昭和三年度歳入歳出總予算追加第一號は大禮に要する經費でありまして、其金額は歳入歳出各九百五十五萬餘圓であります、大禮費は總額千二十四萬餘圓にして、内昭和二年度に屬する分三十四萬餘圓、昭和三年度に屬する分九百九十萬餘圓であります。而して此昭和三年度に屬する經費の内三十四萬餘圓は施行予算の範圍内に於て支辨し、殘額九百五十五萬餘圓を追加予算として要求致したのであります、昭和三年度歳入歳出總予算追加第二號は大禮に伴ふ關係各省の施設に要する經費でありまして、其金額は歳入歳出各六百三十六萬餘圓、其主なるものは儀仗、警備及衛生等に要する經費であります、昭和三年度歳入歳出總予算追加第三號は、不成立予算に計上したる事項中、必要避くべからざるものを計上致したので、其金額は歳入歳出各四千五百四萬餘圓であります、次に昭和三年度歳入歳出總予算追加第四號には、大體不成立予算に計上せられざる事項にして、

緊急已むを得ざる經費を計上致しました、尙ほ不成立豫算に計上したる事項にして、其一部の變更を爲す必要を生じたるものを含んで居ります、其金額は歳入歳出各千七百七萬餘圓であります、以上を通計致しますると、追加豫算の總額は、歳入歳出各七千二百三萬餘圓となります、昭和三年度實行豫算は、經常部十一億七千八百三十六萬餘圓、臨時部四億三千八百十七萬餘圓、計十六億千六百五十四萬餘圓にして、前に述べたる追加豫算の成立を俟つて之に追加すべき實行豫算追加額は、經常部五十六萬餘圓、臨時部千四百十二萬餘圓、計千四百六十九萬餘圓であります。以上昭和三年度實行豫算、實行豫算追加並に追加豫算の三者を合計致しましたものが即ち昭和三年度歳計の總額でありまして歳出が經常部十一億九千九百五十五萬餘圓、臨時部五億三百七十萬餘圓、計十七億三百二十六萬圓、之に對する歳入は經常部十四億八千四百三十六萬餘圓、臨時部二億千八百八十九萬餘圓、計十七億三百二十六萬餘圓であります、尙ほ昭和三年度に於て歳出豫算の財源として、新に發行する公債は一般會計に在りましては、震災善後公債六千四百萬圓、特別會計に在りましては、帝國鐵道の分五千五百五十六萬圓、其他の分は總て前年度通りでありまして、其總額は一億四千二百五十六萬圓であります、諸君、地租の地方委

譲は現内閣重要政策の一つであります、其關係する所頗る多岐複雑なるが故に、特別議會に於て審議を求むるは適當ならずと考へまして來るべき通常議會に之を提出することに致しました、隨て是が手續等の關係上、地租が地方の收入に歸するのは昭和六年度になる譯であります、斯くなりまする以上は、營業收益税をも地租と同時に國稅より撤廢する考であります、而して政府は國稅地方税を通じ、一般的稅制整理を遂行して、社會政策的租稅制度を確立し、努めて中産以下の負擔を輕減することとし、其成案を次の議會に提出する豫定であります(拍手)更に經過的便法として昭和四年度より、或る程度に於て地租の稅率を引下げ、營業收益税の免稅點を引上げる積りであります(拍手)諸君、私は此機會に於て昨年來の銀行整理の經過に付て一言致します、昨春財界の恐慌以來休業したる銀行の總數は三十八行でありまして、其休業當時に於ける預金總額は五億六千八百餘萬圓でありましたが、今日まで完全に整理を遂げたるもの及、整理案確立して手續進行中のもの、合せて二十五行に上りました、而して現在整理未済の銀行は十三行であります、其預金總額は六千餘萬圓でありまして、當初預金額の約一割に過ぎませぬ、隨て一般經濟界に對する影響も極めて少ないのであります、政府は是等銀

行に對しても、銳意其整理の促進を圖つて居ります、右の如狀き況でありますが故に今や休業銀行の整理は大體に於て一段落を告げたものと申して差支ないと信じます（拍手）尙ほ恐慌前に休業して居りました銀行も多數ありましたが、是が善後處置を促進致しましたる結果、其解決を告げましたものが四十一行に達したのであります、右休業銀行の整理に付きましては、特別融通法に依り便宜を與へたるは勿論でありますが、又資金の固定を來せる銀行にして、特別融通の援護の下に或は單獨整理を遂げたるものあり、或は他行に合同し、又は他行に其營業の一部を引繼ぎたるものあり、斯の如くにして、一般銀行の整理は著しく進捗致したのであります、而して特別融通の總額は四月二十一日現在に於きまして、三億四百萬圓に達しました、臺灣銀行に付ては、臺灣銀行調査會の決議に依り、臺灣融資法及特別融通法の適用を受けまして、其整理を遂行し、又臺灣に於ける主要銀行たる臺灣商工銀行及華南銀行に對しましては、臺灣融資法に依りまして援助を與へ、以て臺灣に於ける金融機關の機能を維持することに致したのであります、銀行の合同に付きましては、從來政府に於て之を獎勵し來つたのであります、が、昨春以來銀行當事者も、痛切に其必要を自覺されまして、合同銀行の數が著しく増

加致し、昨年中に於て百三十四銀行の合同を見、本年に入りまして最近までに既に合同致しましたものが五十餘行、合同の見込確實のものが約八十行に上つて居る狀況であります、抑々昨春勃發したる金融界の動亂は、前古未曾有の大災厄でありましたが、其整理恢復が斯の如く順調に進捗し、金融機關の狀況は恐慌前に比べまして、却て著しく鞏固堅實に相成りましたことは、全く國民一般の協力に依るものでありまして、私は當局として洵に感謝に堪へませぬ（拍手）而して特別融通法に依る多額の融通が一般財界に及ぼす影響に付きましては、政府に於きまして深く注意し、之が對策に付きましては、慎重なる考慮を拂つて居る次第であります、終に臨み政府提出の豫算案に付きましては、何卒速に御協賛を與へられんことを希望致します（拍手）

○議長（元田肇君） 國務大臣の演說に對する質疑通告が澤山出て居りますが、是は暫く後に廻しまして、豫算審査の都合上暫時休憩致すことに致します

午後一時四十一分休憩

午後二時五十八分開議

議 題

(第一號)昭和三年度歳入歳出總豫算追加案

(委員長報告)

報告書

一(第一號)昭和三年度歳入歳出總豫算追加案

右は本院に於て可決すべきものと議決致候此段及報告候也

昭和三年四月二十五日

委員長 川原 茂輔

衆議院議長元田肇殿

(第二號)昭和三年度歳入歳出總豫算追加案

(委員長報告)

報告書

一(第二號)昭和三年度歳入歳出總豫算追加案

右は本院に於て可決すべきものと議決致候此段及報告候也

昭和三年四月二十五日

委員長 川原 茂輔

衆議院議長元田肇殿

(特第一號)昭和三年度各特別會計歳入歳出豫算追加案

(委員長報告)

報告書

一(特第一號)昭和三年度各特別會計歳入歳出豫算追加案

右は本院に於て可決すべきものと議決致候此段及報告候也

昭和三年四月二十五日

委員長 川原 茂輔

衆議院議長元田肇殿

〔川原茂輔君登壇〕

○川原茂輔君 只今議題となりました第一號、昭和三年度歳入歳出總豫算追加案、第二號、昭和三年度歳入歳出總豫算追加、特第一號、昭和三年度各特別會計歳入歳出豫算追加、右の三條は御大典に關する豫算であります、私は茲に此豫算案を紹介するの光榮を荷ふのであります、仍て其結果及經過を御報告致します、此三案を一括して議題となし、立憲政友會を代表して堀切善兵衛君の賛成の大意を御紹介致します、聖上陛下御即位の大典は我が皇室及國家の一大盛儀でありまして、全國民は滿腔の熱誠を披瀝して、奉祝の

誠意を表し奉らんと期して居るのであります、吾々は政府が深き注意を以て調査編成したる此豫算は、出来得る限り盛大且つ莊嚴に御儀式を舉行せらるゝ爲め遺憾なきを信じ、恭しく協賛の誠意を表する次第でありますと云ふやうな賛成の意味であつたのであります、續いて立憲民政黨を代表して町田忠治君より即ち賛成の御演説があつて、其趣旨は堀切君の演説と同一でありました、民政黨を代表して謹んで誠意を披瀝して、此豫算案に賛成を表すると云ふの意味であつたのであります、其外一人の異議者なく満場一致可決したのであります、茲に之を報告して本議場に於ても亦満場一致御賛成あらんとを希望致します

○議長(元田肇君) 賛成の通告がございます、粕谷義三君

〔粕谷義三君登壇〕

○粕谷義三君 諸君私共は只今豫算委員長の報告に係りまする御大禮に關しまする、豫算の各案に對しまして、茲に満腔の赤誠を捧げて謹んで賛成の意を表する者であります、今秋十一月を以て御舉行遊ばされます即位の大禮は、今上陛下御一代の御盛儀に在らせられました、又國家の大典でありまして、忠良なる八千萬國民は齋しく聖徳を仰

ぎ奉り、歡喜奉祝の赤誠を捧げんと期して居る次第であります、隨て之に關しまする費用は、全國民一人の異議なき所と信するのであります、今回政府が慎重の用意を以て編成提出せられました此各案に對しましては、只今豫算委員長の報告の如く、吾々は謹んで全部の賛成を致す者であります(拍手)

○議長(元田肇君) 武内作平君

〔武内作平君登壇〕

○武内作平君 諸君、即位の禮竝に大嘗祭は國家最高の大典でありまして、至上の盛儀であります、我が忠良なる國民は擧げて寶祚の無窮を祈り、國家の隆昌を祝福せんと期待を致して居るのであります、吾々は此國民の至誠を代表致しまして、只今議案になつて居りまする御大禮費竝に御大禮施設費に對しまして、全部政府の提案に賛意を表する者であります、當局有司は此大切なる典儀の奉行に際しまして、周到なる注意と最善の努力を拂つて、萬遺憾なきことを期せられんことを切望して止まない次第であります、茲に謹んで協賛の誠意を表明致します(拍手)

○議長(元田肇君) 他に發言の御通告もございませぬ、隨て此三案の委員長報告に付き

まして採決を致します、賛成諸君の起立を求めます

〔議員起立〕

○議長(元田肇君) 満場一致可決確定致しました(拍手)

○原惣兵衛君 尙ほ日程第一は御大禮に關する法律案なるが故に、引續いて其審議を進められんことを望みます

○議長(元田肇君) 只今原惣兵衛君の動議で、日程を進められるやうにと云ふこととございませうが議長も御同感であります、此儀事日程第一は、政府より議院法第二十七條但書及第二十八條但書の緊急事件としての要求がありました、仍て日程第一大嘗祭齋田の土地免租に關する法律案を議題と致します、御異議ございませぬか

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長(元田肇君) 然らば議題と致します、三土大藏大臣

第一、大嘗祭齋田の土地免租に關する法律案(政府提出)(緊急事件)

大嘗祭齋田の土地免租に關する法律案大嘗祭の齋田に指定せられたる土地に付ては昭和三年分地租を免除す

府縣市町村其の他の公共團體は前項の土地に對し昭和三年度に於て租税其の他の公課を課することを得ず

本法に依り免除せらるる租税は法令上の納税資格要件に關しては免除せられざるものと看做す

〔國務大臣三土忠造君登壇〕

○國務大臣(三土忠造君) 本年秋冬の交に行はせられます大嘗祭は、申すまでもなく國家の大典でございまして、其供饌用の新穀を作り奉るべき悠紀、主基の齋田に指定せられたる土地に付て租庸を免じ給へるは、古來の典例でございませう、近くは大正四年大嘗祭を行はせられました際に於きましても、悠紀、主基の齋田に指定せられました土地に對して、地租其他の公課を免除せられましたことは、諸君の御承知の通りでございませう、畏くも本年此大典を舉行せられることに御治定相成りました結果、悠紀地方の齋田は滋賀縣に、主基地方の齋田は福岡縣に決定せられました、就ては右悠紀、主基の齋田に指定せられたる土地に對して、地租其他の公課を免除するを至當なりと認めまして、本案を提出致した次第でございませう、御審議の上速に御協賛を與へられんことを希望致



します(拍手起る)

○議長(元田肇君) 採決致します、本案に賛成諸君の起立を求めます

〔総員起立〕

○議長(元田肇君) 満場一致可決致しました(拍手)只今政府より共産黨事件の報告の爲め發言の要求があります、尙ほ之に對して祕密會を要求せられました、仍て是より祕密會に致します、傍聽人の退場を命じます

〔午後三時十二分祕密會に入る〕

〔午後四時二十八分祕密會を終る〕

○議長(元田肇君) 是より會議を公開致します、傍聽人を入場せしめます——靜肅に願ひます——靜肅に願ひます、祕密會に於きましては鈴木内務大臣及原司法大臣より共産黨事件に關する報告を聴取致しました 只今長島隆二君より成規の賛成を得て、此際日程を變更して尾崎行雄君提出、思想的國難に關する決議案を上程すべしとの緊急動議が提出されました、此動議に御異議はありませぬか

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長(元田肇君) 御異議ないと認めまして可決致しました——政府も此日程變更には同意されました——仍て日程は變更致しました、尾崎行雄君

2、思想的國難に關する決議案と尾崎行雄氏の演説

思想的國難に關する決議案(尾崎行雄君提出)

思想的國難に關する決議案

思想的國難に關する決議

今や帝國の國難は思想、政治、經濟の諸方面より襲來し今にして早く匡救の策を講ぜずんば、明治大帝の遺業或は失墜せんことを虞る此秋に當り端なく共産黨事件の勃發を見たるは眞に國家の最大不祥事なり之を變理するの道は殊に細心の注意を要す  
國法に背て共産主義を實行せんとする者の罪科は素より責罰せざるべからずと雖も此の如き思想を醗酵發育せしむる所の環境も亦之を改善せざる可らず凡そ朝野兩黨共に政權爭奪に没頭して國家内外の政務を懈怠したるが如き租税の徵課分配其の道を誤て不合理的に貧富の隔絶を招けるが如き救恤恩給獨り官吏に厚くして人民に薄きが如き勞資關係其の宜しきを失して產業界の秩序を壞亂せるが如き皆な爲政家怠慢の致す所

にして而も悪思想發育蔓延の素因ならざるはなし素因を排除し環境を改善せずして單に刑罰のみに由て悪思想を撲滅せんと欲するも到底其の目的を達する能はざる事は古今内外事跡の證明する所徴證歴々彼の露獨に在り且つ如何なる悪思想と雖も立法的手段に由て之を實行せんとする氣習を養成すれば安全瓣を設けて爆發の危険を豫防すると同様の效果なしとせず

此の如き思想的運動の發育蔓延に對しては歴代の内閣均しく其の責を免るる能はず獨り現内閣のみを責むべきにあらざるも本院は茲に左の三事を決議し相共に謹慎恐懼の情を表せんとす

- 一、共產黨事件に對し政府が刑罰のみを以て之に臨むは不可なり宜しく其の環境を改善するの途を講せざるべからず
- 一、本事件の檢舉を以て政府が手柄顔せんとするも不可なり當事者は須らく謹慎して罪を聖明に謝し國民に謝せざるべからず
- 一、議會も亦謹慎恐懼の情を表すべし斷じて本事件を以て黨略的に利用し紛擾の端を滋くすべからず

右決議す

〔尾崎行雄君登壇〕

○尾崎行雄君 先刻御大禮費協賛の際に諸君が表はされた所の敬虔の態度と謹慎の精神は、願くは此御大禮費實行後まで維持せられんことを切望致します(拍手)若し中途にして從來の如き亂雜不謹慎の言動を恣にするが如きことあれば、折角表明せられた所のあの態度は、全く虚偽の沙汰であつたと言ふことに陥るのであります、是は帝室に對しても、諸君自己の良心に對しても容易ならぬことでありますから、此點は御互に深く心に銘じて忘れざるやうに致したいと考へます(拍手)靜に國家の現状を觀察致しますると、政治上に於ても經濟上に於ても、實に憂慮に堪へざるものがあります、今にして早く救済の途を講せなければ、維新中興の大業も遂に或は失墜するの懼が無いとも言はれませぬ、特に思想的方面より來る所の國難に至つては、吾人をして戰慄寒心せしむるものがある、總理大臣が天下公衆に對して聲明した所に依りますれば、幾百の兇徒は組織的に大陰謀を企て、國體を根本的に變革し、勞農階級の獨裁政治を樹立せんとしたとあります、而も其首謀者追従者が市井無頼の徒輩に非ずして、却て多くは高等學府より出

でたと聞くに至つては、實に建國以來の一大不祥事と言はなければならぬ(拍手)局に立法行政に當る者は斯の如き兇惡なる思想の發生蔓延に對しては、皆其責を分たなければならぬと考へます、則ち恐懼謹慎、唯々其罪責を償ふ能はざらんことを是れ恐るべき筈である、又何の違あつてか、政權爭奪に没頭することが出来やうぞ(拍手)曩に幸徳秋水等を死刑に處するや、其發芽成長は遠く數年以前に在りたりと雖も、桂内閣は尙ほ辭表を捧呈して恐懼謹慎の實を表はした、又先に虎の門事件あるや(「政友會内閣總辭職せよ」「黙れ」と呼ぶ者あり)

○議長(元田肇君) 靜に……どうぞ御靜に

○尾崎行雄君(續) 又先に虎の門事件あるや、山本内閣は總辭職を以て其罪を謝しました(拍手)今回の事件は前二回に比すれば事態頗る重大なれども、閣臣は只詩的言辭を連ねて恐懼の意を表するばかりであつて、毫も恐懼の色が見えないのみならず、在朝黨は只其位地を失はんことを是れ恐れ、在野黨は只之を得んことを是れ希ひ(拍手)純然たる匹夫野人の心事を暴露して、毫も耻ぢることだも知らないやうである(拍手、發言する者あり)

○議長(元田肇君) 靜に

○尾崎行雄君(續) 議長の爭奪、議員の誘拐、市井無賴漢の爲す所と殆んど異なる所はない(拍手)偶々正副議長が黨籍を離脱して公平を装ふが如きことあるも、既往に於ては其心は常に黨利黨益に存して、偏私横暴數々議會の神聖を汚瀆し、其體面を毀傷した、將來に於ても亦或は然らんことを恐れます、此事小なるに似たれども、一代の儀表たるべき正副議長が天下俱に瞻る所の位地に立つて、白晝公然此虚偽欺瞞を敢てし、以て己を欺き人を欺くに至つては、全國民に及ぼす所の思想的惡影響は甚だ重大なることを思はなければならぬ(拍手)特に全國民の代表機關たる衆議院が之を默過するに至つては、天下公衆に虚偽騙詐の道を教ふるものに非ずして何と言ふことが出来る(拍手)國民思想が次第に險惡に赴くのも決して偶然ではないやうに思はれる、斯くて朝野兩黨共に黨争に没頭して日も亦足らざるが故、君國の事多くは屬僚に一任して幾んど施爲する所なく(拍手)偶々是れあれば財閥と結托して、中産以下の民衆を壓搾疲弊せしむることが多い、其結果として政商は勞せずして日に萬金を濫費し得るも、正道に就き正業を營む者は、日夜勤勉儉約しても、尙ほ饑寒に號泣せざるを得ない者が益々増加するばかりであ

る(拍手)此國狀は社會主義、共產主義者を發育蔓延せしむべき適地、否な苗床温室である、苟も此環境を改善せざる限りは、如何なる最刑酷罰を以て之に臨むも、到底之を撲滅することは出来ないと思ひます(拍手)加之德行仁政の伴はざる嚴刑酷罰は動もすれば却て撲滅せんと欲する思想を、益々蔓延せしむる結果を生ずる、親鸞、日蓮等の思想は、之を流刑に處したる爲めに大に擴まつた、耶蘇教も耶蘇を磔殺しなかつたなら、あれ程擴まらなかつたかも知れませぬ、近世に於ては刑罰に依つて社會主義や共產主義を驅逐せんと努力したものは獨逸露西亞の右に出づる國はあるまい、然るに兩主義は獨露に於て最も蔓延し、最も其害毒を逞しうしたが、之に反して嚴刑酷罰を以て之に臨まなかつた邦國に於ては、其蔓延も害毒も却て少ないのが何よりの證據ではあるまいか、列國の情勢は各々相異なるから、本員は必しも嚴刑酷罰主義に反對するばかりのものでもないが、獨り自ら是とせずして、古今内外の事例も多少は參酌講究する方が安全だらうと考へます、特に嚴刑酷罰主義を行ふものは、己れを持つること最も謹嚴方直でなければならぬ、然るに近來は歴代の閣僚皆此心掛に乏しく、動もすれば放言壯語、毫も忌憚する所がない、例へば「大學の一つや二つは潰しても宜い」と放言するが如き 又再解散

を以て議員を威嚇するが如き(拍手)實に亂暴狼藉の至りである、さなきだに激昂し易き青年學徒に對して斯の如き暴言を用ふるは、恰も之を挑發して罪辟に陥れるも同様である、又議會解散は言ふ迄もなく 天皇陛下の至要なる御大權の一つであつて、其運用は一に陛下の聖斷に待たなければならぬ、豫め陛下の御内意を伺ひ、御内諾を得た後と雖も國家的絶對必要ある場合にあらすんば之を外間に漏すべきものではない、然るに閣臣たるもの、未だ陛下の御裁可をも仰がざる以前に再解散を聲言するが如きは、畏れ多くも陛下を侮蔑し奉り、且つ大權を侵犯し僭竊するの第一歩である、(拍手)又解散大權が内閣の意見次第何時にても自由自在に行使し得られるが如き言動を爲すに至つては、眞に不謹慎の極と評せざるを得ない(拍手)特に皇室……(發言者多し)

○議長(元田肇君) 靜肅に願ひます

○尾崎行雄君(續) 皇室中心政治を説くものにして斯の如き言行を爲すに至つては、一大矛盾と言はざるを得ない(拍手)先には黨略以外に何等の目的もなく、又準備もなくして解散を奏請し、今又之を再びせんとするは、是れ所謂懲罰的解散にして、取りも直さず一千餘萬の選舉人を懲罰せんとするの暴行である、單に威嚇に止まるとするも、尙ほ

不敬不遜の太だしきものであるが、萬一之を實行するに於ては、直に國民を懲罰せんと欲する暴舉となるのであります、(拍手)嚴刑酷罰を以て危険思想に對するもの身を持つるに謹嚴方直の道を以てせず、却て自ら斯の如き亂行妄動を爲して宜いのでありませうか(拍手)「其通り」と呼ぶ者あり)又如何に黨争に没頭すればとて、苟も帝國臣民たる者は今秋は御即位の御大典があることを忘れてはなりません、此盛典を、瑞氣祥雲天地に満ち、全國人民皆嬉々洋洋たる間に於て舉行したきは、苟も陛下の臣子たる者の悉く熱望する所でなければならぬ、然るに在野黨は唯々政權獲得に熱中して手段を擇ばず、政府も亦只管其位地を維持せんと欲して無謀にも再解散を奏請し、解散又解散、干渉又干渉、以て議會を壓迫するが如きことあらば、折角穩健に赴いた左傾分子も、止むを得ず再び直接行動の主張者となる憂がある、是れ明治大帝の御偉業を毀傷する所以ではあるまいか、さなきだに經濟的國難に苦しめられて人心頗る險惡に赴ける今日に方り、朝野兩黨各々不謹慎なる言行を恣にし、形勢の激する所、或は流血の悲惨事を激成するかも計り難いではないか、萬が一にも御大典以前に於て、暗殺暴動等の不祥事件を惹起して、陛下一代の御盛典を汚瀆するが如きことあらば、在廷の臣僚は夫れ何の道に由つ

て其罪を償はんとするであらうか、苟も臣子の本分を知るものは其朝に在ると野に在るとを問はず、此時此際、特に其言行を戒慎し、苟も人心を激昂せしめ、物情を騒然たらしむべき舉動は、勉めて之を回避すべき筈である、黨争激甚にして朝野共に常軌を脱せるが爲め、先きには議場内の殴打創傷事件に次ぐに不當の解散、選挙の干渉等を以てして、連續的に昭和の新政を汚瀆した、それにも懲りず更に益々軋轢争闘を急激苛酷にして毒焰を煽らんとするに至つては、君國の禍患實に底止する所がなからうかと本員は心竊に憂慮に堪へない、其結果は單に陛下一代の御盛典を汚瀆するに止らざるやも圖られない、輔弼の大任に當れる朝野の重臣たるもの、どうして一念此に及ばず、醜惡なる黨争に没頭して君國の大事を度外視するであらうか、凡そ國禁を犯す者は之を責罰せざる可からざること論を俟たずと雖も元來思想は思想を以て之を救治するのが本筋であります、殊に直接行動を豫防し、之を穩健ならしむるの道は、立法的手段に依つて其思想を實現せんと欲するの氣習を起さしむる程良い手段はないやうに思はれる、此習慣が一度起れば直接行動は一變して言論戦となり、選挙戦となる、故に如何なる險惡急激の思想と雖も漸次穩健に赴き、暴動内亂其迹を絶つに至ることは、英國などの事例に徴しても

其一端を窺ふことが出来ず、彈壓すれば爆彈となり、立法的手段に依らしむれば言論戦となる、是が國家安危の分岐點であると言うても宜からうと思ひます、之を要するに政治家多くは黨争に没頭して、毫も其手段を擇ばざるが如き現状を革正せざる限りは、惡思想發育の環境を改善する能はず、環境依然たる以上は病菌は際限なく發育する、則ち帝室の禍殃は獨り共產主義者に止らず、彼の君國を忘れて黨争に没頭し病菌の爲に温室を造るものにも在ることを覺知せなければならぬ、一念苟も此に及べば吾人は悚然として恐懼謹慎せざるを得ず而して恐懼の念慮一度動いて深く臣節を思ふに至れば、今日の世排除すべく、施設すべきものは雜然として眼前に堆積することが見えるであらう、本員は此處に熱誠を披瀝して朝野の兩大政黨に勸告する、在朝黨は政權維持の私心を棄て、其防禦軍を撤退し、在野黨は政權獲得の野望を棄て、其攻撃軍を撤退し兩黨各々専心一意に獻替奉仕の道を講せられんことを切望致します、終りに臨んで本員は重ねて言ふ、今秋は御即位の御大典があることを忘れてはならぬと、又重ねて言ふ、現在の世態人情は頗る險惡に赴きつゝあると云ふ事實を忘れてはならぬと、苟も此二つの事實を念頭に置く時は、再解散の如き、倒閣運動の如き、苟も事端を滋くし、累を帝室及國民の大

典に及ぼすべき恐ある言動は、凡て之を戒慎するの必要を悟ることが出来やう、本員等は茲に此決議案を提出して朝野兩黨の反省を促し、併せて自ら恐懼謹慎するの實を擧げんと欲します、冀くば滿場諸君の賛成を與へられんことを望みます(拍手起る)

○議長(元田肇君) 原夫次郎君

〔原夫次郎君登壇〕

○原夫次郎 諸君、私は只今議題と相成たる、尾崎君御提案の思想的國難に關する此決議案に對して、質疑を試みやうと思ふのであります、只今尾崎君の述べられました提案の理由は、言々句々殆ど現政府彈劾の辭ならざるはなかつたのであります(拍手起り「ノウウ」と呼ぶ者あり)吾々は此一種變態の彈劾案に對しては敢て賛成を辭せないものである、併ながら此決議案其ものを拜見致しますると云ふと第二項の末段に至りまして、如何なる惡思想と雖も立法的手段に依つて之を實行せんとする氣習を養成すれば、安全瓣を設けて爆發の危険を豫防すると同様の効果なしとせず、斯う云ふ文句が加はつて居るのでございます、又先程拜聽致しました所に依りまして、如何なる惡思想であつても之を帝國議會の立法手段に訴へて、之を矯正することが出来るではないかと斯

う云ふやうな御考のやうでありましたが、私共只今問題に相成つて居る此共產主義の如き斯る思想を國民の反映である所の議會の立法手段に訴へて、斯の如き惡思想を矯正若くは傳播の手傳を致すと云ふことは、是は斷じて避けなければならぬことと思ふのであります、私は尾崎君に御伺致すのは此一點であるのであります、冀くば此一點だけは、御削除に相成つては如何なものでありませうか、此文字の末に依らず、尾崎君の先程述べられたる其事柄を今少しく詳細に、此點に向つて御思想を承りたいのであります、次に私は田中總理大臣、水野文部大臣、鈴木内務大臣、原司法大臣、是等の各相に對して、極く簡単に御尋致したいことがあるのである、固より此決議案に牽聯を致し、昨今問題と相成つて居る共產黨事件の思想問題に牽聯するものであるであります、一體此共產主義に就きましては、不幸にも彼の京都大學事件なるものが勃發を致し、又それより先に日本共產黨の組織は大正十一年に既に勃發を致して居るのであります、此京都大學の事件の判決は既に昨昭和二年五月三十一日を以て此判決書が公に相成つて居るのであります、此判決書に依ると云ふと、全國殆ど六十一校の學校、生徒の數に致すと云ふと、千六百幾十人の加盟者が出來たと云ふことが、此判決書に謳はれて居るのである、若し

然りと致しませうならば、現内閣が成立致してから以來、此度此共產黨事件が檢舉せられたと云ふことに依つて、何も慌てゝ非常な大掛りなる公表を致さないで、寧ろ其以前に於て現内閣は此京都事件の判決の結果に鑑みまして、少くとも文部大臣は恐懼措く所を知らず、文部大臣は此判決の結果に鑑み（此時發言する者多し）此判決の結果に鑑みて、此共產黨事件なるものに鑑みて、彼の大學に於ての社會研究部なるものを、何故廢さなかつたのでありませうか、此社會研究科なるものを存在せしめて置いて、而して共產黨の研究なるものを大學に於て公然先生から教はり、生徒が研究を致す、而して我國の社會主義なるものを此温室から育て上げると同じ結果に相成つて居るのであります。然るに水野文部大臣は四月十七日を以て、文部省訓令第五號と題し、此訓令に依つて見ると云ふと、俄に此事件が起つたが爲に、全國の各地方長官各學校長に對して能く身を守り、其本義を全うしなければならぬと、唯々徒に此訓令に依つて此思想を鎮壓せしめんとした舉に出でたと云ふことは、一體何たることでありませうか、私共は文部大臣は斯る訓令を出すまでもなく、自ら範を示し、此社會主義の思想を根抵から之を撲滅するやうな策を何故講せなかつたのでありませうか、而も此一片の訓令を出して、此思想を

根柢から芟除せよなど、云ふことは、是は到底木に縁つに魚を求むるも同様であつて、斯の如き淺蕞なる考を持つて此思想界——共產主義を撲滅せんとするやうなことは、如何なる考から起して居るのであるか、又斯の如き今度の共產黨事件に付ては、各官立學校の生徒が多く刑辟に觸れて居るのである、然らば文部大臣たる者は自ら臣節を全ふ致し、何故に此事件の勃發に對して自ら責を負はないのであるか、此點に向つて水野文部大臣に御伺を致すのであります、次に司法大臣に御尋致さんとする所のものは、此事件が起ると云ふと、政府は非常なる大功を樹てたるが如く、大掛りに此事件の内容を公に致したことであります、彼の司法省の發表に係る所の此事件の概要なるものを拜見致すと云ふと、是は何れも當局が起訴致し、而して既に豫審に係つて居る事件である、豫審中の事件は言までもなく之を公にすることは何人も許さないものである（「秘密會だ」と呼ぶ者あり）何人も許さない、或は刑事訴訟法に其規定あり、或は新聞紙法に其規定があるのである、然るに何を以て司法省の此聲明なるものを天下に公に致したのであるか、此點を司法官憲の長官である所の原司法大臣に御伺を致して置くのであります、又鈴木内務大臣は當時此三團體の禁止理由と致して公にせられたる所に依ると、矢張同様に此

事件の豫審事項に觸れて、何れも證據が十分であるから。此事件に關係を持つ所の此三團體と云ふものを解散するのであると云ふことの聲明を致して居るのであるが、是も同じく我が今日の現在の法律で、斯くまでに慌て、之を發表する必要はないのである、必ずや證據が明になるまで待つて差支ない、少くとも其輪廓を示すのは差支ないと致した所で豫審の此事項に觸れて證據が極めて明白であると云ふことを内務大臣が公表致して居ると云ふことは、何たる不謹慎なことである、此點を御伺を致したのであります、次に田中總理大臣に御伺を致したいのは、田中總理大臣は此事件が起ると同時に、矢張此事件に付て天下に聲明書を發表致して居るのであります、又本日の本會議に於きましても、田中首相から此事件に付て御演説があつたのであります、此何れの御聲明に付きま成つたのであります、一體此事件が起つてから現内閣が彈壓政策を行つたと云ふことは明かである、而して此事件に付て、此事件に鑑みて所謂拔本塞源の道は果して如何なる事に依つて、之を閉塞せしめやうと云ふ御考になつて居るのであるか、此點に付て御伺を致したのである、何となれば只今の尾崎君の提案の決議案に鑑みましても、此



決議案の第二項に於ては、本件の檢舉を以て政府が手柄顔せんとするも不可なりと斯うある、政府は如何にも此事件を以て手柄顔せんと致して居ると云ふことは、世間何れも申して居る所である、此事件に付て吾々は如何にも恐懼に堪へないで居るのであります、法律までも蔑ろにして天下に發表を致し、而して其刑事訴訟法の規定若くは新聞紙法の規定等までも無視して、茲に斯の如き事を公表するに至りたることは、吾々何としても其精神を疑はざるを得ないので、此質問を致した次第である(拍手)「答辯無用」「必要なし」と呼ぶ者あり)

○議長(元田肇君) 田中内閣總理大臣

〔國務大臣男爵田中義一君登壇〕

○國務大臣(男爵田中義一君) 只今原君より私に對しての御質問に御答を致すのであります、此事柄の起つたと云ふことは、種々の原因もなくはならぬのであります、吾々は諸君と共に之を大に研究せなくちやならぬのであります、殊に當局として最も考慮せなくてはならぬことは、此教育の方面と云ふ事と、殊に國民生活の安定と云ふ事には、一入の努力を拂ひ、又之に依つて此思想の湮滅すると云ふことを期する最も重大なる要件

であると心得て居るのであります(拍手)

○議長(元田肇君) 中西六三郎君

〔中西六三郎君登壇〕

○中西六三郎君 私に此提案に付て、此機會に提案者に御尋を申して置きたいことがあります、此案が配付されまして、豫め拜見を致しましたる時に私は多くの疑問を持つて居つたのであります、然るに只今尾崎君の提案の御演説を拜聽して大部分は了解を致したのであります、されど如何にも私此案の審議されます時、遺憾の節が多いから、圖らずも質問をせなければならぬことになつたのであります、此案の主たる核心は何處に在るかと云へば、黨争の弊害を叫ばれて居る部分が多量と見受ける、若し斯る提案が此現在に處して必要なりとして審議される場合であるならば、此議席の諸君は最も重大なる責任を以て之を迎へられなければならぬものを、尾崎君の言議が偶々其鞭を政府に當てれば、野黨の人喜び叫ぶ、若し野黨の主張に近ければ、與黨の諸君の狂躁をされる有様を見て、如何に現在黨争の弊の深かりきを、私は歎くのである、されど質問は自ら別であります、吾等は此提案の理由を見ますと云ふと、本事件の檢舉を以て政府が手柄顔せ

んとするも不可なり、當事者は須く謹慎して罪を聖明に謝し、國民に謝せざるべからずと示されて居ります、此事件を檢舉したからと云つて、政府が之を己の手柄顔にすることの宜しくないことは言ふまでもないが、併ながら茲に言ふ、當事者は須く謹慎せよとある其當事者と云ふものは何者を指摘されたかと云ふことも、提案の意味がはつきりしない、此當事者は檢舉したる現内閣を指されたのであるか、或は此理由に謳うて居る如くに、今迄の経過の總てを包含する意味であるか、若し單に文理解釋に従へば、此事件の檢舉が題目となつて、當事者と謳はれて居るから、現内閣を指したものと解しなければなりません、提案者の趣意果して然りや否や、更に又凡らく謹慎して罪を聖明に謝せよとあるが斯う云ふ公の事柄は、個人の身の上の謹慎、其意味ではなからうかと思ふ公的に、政治的に、謹慎の形を現すことを意味して居るものであらうと思ふが、提案者は果して其意味に於て出されたのであらうか、更に又國民に對して罪を謝せなければならぬと云ふことも、同様の意味に於て公的、政治的手段を以て謝罪をせよと云ふ意味と解し得るが、果して提案者は其意見であつたか、亦更に議會も謹慎恐懼の情を表すべし、斯様に書かれて居る、議會が斯る問題に對して、謹慎恐懼の情を表すと云ふことは、之

を具體化する時に如何なる形式を意味されて居るものか、其點を明にして置きたいと思ふ、吾等個人と致しまして、此度の出來事に對して、國民と共に無限の恐懼を致して居るのである、併ながら議員として此議場に在る吾等は、吾等單獨のものではない國民代表の身分である、謹慎の姿を現すと云ふ時、提案者は如何なる行動を望まれたのであるか、是等の點に向つて最も注意深き尾崎君の御演説を拜聴して、尙ほ私は理解し兼る節がございます、此問題が今日の政黨の有様今日の政局の有様に促されて、茲に單り尾崎君ばかりでない、吾等の長老として畏敬して居る犬養毅君を始め、多くの名士の人の賛成に依つて提案されましたることに、私は重大なる尊敬を以て迎へて居るそれだけ、此問題を取扱ふには、眞面目に諸君の研究を進められることを望む、先程から議場の有様を見るのに、斯様な問題が現れて居る時、此姿、あの有様が若し一般世間に知れましたら、恐らくは世人は失望するであらうと思ふ、願くは提案者及賛成者の面目と吾等議員全體の責任に於て、此問題を今少しく眞面目に御審議あらんことを望むのであります(拍手)私は只今の質問に對して提案者の御答を望む、若し提案者御退席でありますれば、賛成の方から御答下されても、事は足りるのであります(拍手)

〔尾崎行雄君登壇〕

○尾崎行雄君 只今の御質問に對して御答致します、此事件の……

〔發言する者あり〕

○議長(元田肇君) 靜肅に願ひます

○尾崎行雄君(續) 發生及蔓延は單り現内閣の下にしたものではない、歴代の内閣皆與つて居ると思ひます(拍手)故に其罪は殆ど輕重はない、唯不幸にして現内閣在職の時に、之が表面に現れたと云ふのは、現内閣の罪と云ふよりか境遇の不幸と申さねばなりません(拍手)併ながら其不幸に出會つた當局者は、無論謝罪をせねばならぬと思ひますが、其謝罪の途は一にして足らぬ、既往に在つたが如く總辭職をして、御裁可を得ずして依然其職に留まるのも其一つである、又其儘去るのも一つである其他總辭職以外の他の手段を執ると云ふことも、絶対にないことはございますまい、色々ありますが、それは當事者の裁量に任すべきものであつて、吾々立法部員が指圖をすべき譯でないと思ひます、國民に對して謝すると云ふことも、是は途は多々ございます、國民の間に斯の如き危険なる思想の發生しないやうに、行政立法宜しきに導くと云ふことが、最も有效な

る謝罪の途である、是等のことは朝野兩黨共に努めなければならぬ、それから立法院の恐懼謹慎と云ふ途でも多々ございます、從來の如く御互に殴り合ふ、罪人を出す、是などは不謹慎の至りでありますから、苟も恐懼謹慎と云ふ以上は、それ等のことも皆戒めなければならぬと思ふ、同時に又從來の如く唯々黨争に耽つて大切な國家的立法を怠つたことが今日の世相を險惡ならしめた一つの原因であつて、是は吾々其責に任せなければならぬから、之に向つては道德的の恐懼謹慎の意を表すると同時に、進んでは既往の罪科を償ふ爲に、良き立法をすることに努めて、此罪惡を補ふべき途を努めることが、最も謝罪の有効なるものと考へて居ります、本員は耳を患つて居りますが爲に、聞漏した所があるかも知れませぬが、大體承つた所は此邊かと思ひますから、是だけを御答致します(拍手)

○議長(元田肇君) 田淵豊吉君

〔田淵豊吉君登壇〕

○田淵豊吉君 今尾崎先生から——尾崎行雄君から決議案を提出されて御説明がありました、私は能く知らぬで、讀んで居らぬので、今聽いて分つたやうな譯です、それで總理大臣も聽いて居られたから、御感想を聞きたい、私は率直に言ひますから間違うて居

つたら御答を願ひたい、一體此問題が何故出たかと云ふ問題であります、世間傳ふる所に依れば、又私が考へて見ると、是は或は内閣攻撃の爲に尾崎君が或る方法で、それで長老として諸君に警告を與へる、解散をさせないやうにすると云ふ當面の重大なる問題を以て、其骨子として居るのでないか知らぬと私は思ふ、又間違うて居るかも知れませぬけれども、共産黨のことを議員から問ふたのか問はぬのか知らぬ前に、政府から斯う々々と人名まで擧げて、斯う々々云ふ悪い者が斯う々々云ふ組織で、斯う斯うと云ふことを此議會の劈頭にやると云ふことは、何ぞ政治的意味が其背後にないか知らぬと思ふ詰り前の御話と云ひ尾崎君の照應的決議案と云ひ、兩大政黨其他の人が之に御賛成なさると云ふやうなことを伺ひますると云ふと、實に私は分らぬのである、それで私は此間から見て居りますと、いや總括だ、單獨だ、解散だと云うて、揉み抜いて居る、尾崎君の演説には矢張終りに倒閣運動に没頭してはいかぬぞ、解散を流布して脅してはいかぬぞと斯う言はれた、それで前後の關係もありませうが、總理大臣に聞いて置く、閣議に於て解散と云ふことは、決定したとかどうとかと云ふことが新聞に載つて居るが、あれは本當であつたか(拍手)さうして又今何ぞ總理大臣から御答があつたが、私は分らな

つた、御答になつたのは宜しうございますけれども、尾崎君の今の御趣旨の通り陳謝する積りであるか、どうかと云ふことを聞きたい(拍手)又此悪化と云ふ事實だけよりも、如何にして之を鎮撫するかと云ふ、具體的方法と云ふことが、最も重大なる問題であるが、之に對する對案を聞きたい、さうして尾崎君に聞きたいことは、解散してはいかぬぞと云ふやうな事柄が書いてあつた、其點ははつきり書いてあつたか分らぬけれども、演説の中にあつた、然らば此決議案に賛成の人が、解散とか解散になるとか云ふやうなことを言つて脅したり脅されたり、解散反對と云ふやうな懇親會を開いたり何かするやうなことに付ては、如何なる考を持つて居るのであるか、故に此決議案に判を捺した人は、さう云ふやうなことはやらぬと云ふのであるか、それが一つ又倒閣運動のこと、或は鈴木内相に向つて彈劾案を差付けて、鈴木何處までも退けと云ふことを言ふ所の案を、倒閣運動と認むるや否やと云ふことは、是は重大なる問題である(拍手)

〔發言する者あり〕

○議長(元田肇君) 靜肅に願ひます

○田淵豊吉君(續) そこで尾崎君の意思如何、又尾崎君の此決議案に賛成して投票をな

さり、或は表決なされた人は、斯の如きことをすべからずと云ふのであるかどうか、さうでなかつたならば、尾崎君斯んなものは幾ら出しても、大體やつて置けば宜い、後は野となれ、山となれ、喧嘩でも殴り合でも何をやつても構はぬと云ふことであつては、衆議院の神聖を害するから、決議案をしなくとも宜いと云ふことになる、故に吾々は總ての決議案とか、議長を選んでも直ぐ變なことが起るから、私は選ばないのである故に斯う云ふ決議案をする人は、豫め此案の性質竝に謹慎だとか、或は思想の悪化とか云ふやうなことに付て徹底的理解があつて、賛成するに非ずんば、此案を賛成することなからんことを希望して已まぬのである若も賛成する人があるならば、斯の如き前に言うたやうな心を捨て、公明正大に我が帝國の議會の發達光榮、及國民の進歩の爲に或は黄金の戦争或は官吏の干渉に依つて選舉に出て來た所の諸君が實に多い、此中の四百人餘りと云ふものは、殆ど規定の金よりも餘計の金を出して出て來た違法議員であるとさへ言はれて居る、又解散をした所が矢張黄金と此干渉に依つて出て來る所の議員であつて、何等重大なる意義を有するものでないと、私は密に恐れるものである、決して國民の意思は問はれたものではない、それは唯法を間違つて適用された上に於て現はれた議

員であると云ふことを、私は國民と共に言はんとするのであります、諸君、現代は實に重大なる危機に在る所の日本の現状でございますからして、唯々一個の田淵の言としないで、慎重に嚴肅に此議會を進めて、戦ふべきは戦ひ、守るべきは守つて、公明正大の心を以て此議會を進めんが爲に、私は此壇に出て總理大臣及尾崎君に向つてそれを問ひ、諸君の反省を促して此壇を降る次第であります(拍手)

〔尾崎行雄君登壇〕

○尾崎行雄君 質問の御趣意を能く諒解し得ないものでありますから。十分に御答が出來ぬかと思ひますけれども、先づ一通り御答を致して見ませう、第一解散のことに付ての御質問があつたやうであります、是は御答をする迄もなく、私の演説を御讀になると分りますから、此處に御聞きになるより、御讀になつた方が確かであらうと思ひます、第二には倒閣運動を認めるかと云ふ御尋、私は倒閣運動と云ふことは極めて陋劣なる運動と考へて居ります(拍手)凡そ國家に貢獻せんと欲するものは、内閣を倒すとか何とか、そんなことは問題ではない、如何にして國家に貢獻するかと云ふことが目的で、其貢獻すべき道に横はつて妨げを致すものは、是は蹴つて過ぎなければならぬが、それ

は一小手段であつて、目的であつてはならぬのである、然るに今の在野黨は政友會と民政黨たるを問はず、動もすれば野に居れば政府を倒すことを目的とする是は手段と目的を誤解した人でありまして、宜しくないことであるから、倒閣運動と云ふ運動は、私は何れの場合に於ても醜惡なるものとして認めぬのであります(拍手)然らば鈴木内相を彈劾すると云ふ議案が續いて出るが、之に賛成をするのは、倒閣運動ではないかと云ふ御疑がございましょうが、是は倒閣運動ではございませぬ、私の見る所では鈴木内相の非違は、天下俱に瞻る所の次第であつて、是は辯護の餘地がないと私は認めて居りますから、是は宜しく身を退いて、聖明に謝するが宜からう、而して他の閣僚は必しも閣議の上であれ等の非違を遂げたとは私は認めないから、連帶の責任を負ふべきものではない、故に後に留つて一層善き政治をして、内相の責を償つたら宜からうと云ふのが私の意味であつて、鈴木内相の隱退をば希望するのは、此内閣をもう少し長く置かうと云ふ目的に過ぎないので、私は一條の活路を茲に開いて居るのでありますけれども、閣僚若し此活路を利用し得ずして、自ら倒れるならば、是は致方がないのであります、私の罪ではない、彼等の罪でありますから、私は飽迄も倒閣運動は反對するものである、殊

に内閣が出来てからまだ一年餘りにもなるかならない場合に於て、もう之を倒さうと云ふ運動は、徒に物議の騷然たらしめるだけの運動であつて、殊に悪いと思ひます、少くとも適當の機會を與へて彼等の才能を試さなければならぬと思ふ、同時に代らんと欲する者は之に代れば、より善き政治をしようと云ふ自信もあり、世間からも認められなければならぬものであります、吾々公平なる者から見れば、不幸にして在野黨は取つて代つて、より善き政治をするであらうと云ふ信用を與へることは出来ませぬ(拍手)だからして御研究になつたならば、少しは其資格は生ずるだらうと思ふが、此間内閣に居つてあの失態を醸し、而も財界のあの騷が起つた時には其善後策もせずして逃出した人達である(拍手起り)恐れ入つたかと呼ぶ者あり)更つて跡始末をした仕方の悪いことは、私は其當時明言を致して置いたのであります、悪くても火事を消さずに逃げた者に較ぶれば、先づ消した者が餘程宜い、故に在野黨は火事を消さずに逃げたと言ふあの醜態に對して、一年位は御謹慎あつて然るべしと考へて居りますが故に、此場合の倒閣運動は無論反對を致します(拍手)

○議長(元田肇君) 田中内閣總理大臣

〔國務大臣男爵田中義一君登壇〕

○國務大臣(男爵田中義一君) 只今田淵君の御質問の第一點は、閣議の内容と云ふことであります、閣議の内容は遺憾ながら此處で説明を申上げる譯には参りませぬ(出來まい)「其通り」と呼ぶ者あり)又恐懼の意を表したかと云ふことであります、其當時に於ては私は首相として適當と信する所の手續は致した次第であります、是だけを申上げて置きます(拍手)

○議長(元田肇君) 是より討論に移ります、廣岡宇一郎君(政友會)

○廣岡宇一郎君 簡單でありますから、此席より申し上げます

〔「登壇々々」登壇に及はずと呼ぶ者あり〕

○議長(元田肇君) 登壇された方が宜しいでせう

〔發言者多く議場騒然〕

○廣岡宇一郎君 決議案に對して尾崎君の説明を承りましたが、随分多岐に涉つて居ります、私共は一々指摘する譯には参りませぬ、併ながら決議要項に對しては敢て之に反對するの要なきのみならず、斯の如き議院の意思を表明するの必要ありと認めますから

して、吾々は本案に賛成の意を表して置きます

○議長(元田肇君)三宅磐君

〔三宅磐君登壇〕

○三宅磐君 私は初めて議員生活を始めた者であります、初めて議員生活をする者にとつて、只今尾崎君が御説明になつた御演説が始めて分ると思ふのであります、先程尾崎君が決議案提出の御演説を拜聴致して居りまする時に、其説明の或節に付ては、聊か疑問を懷いて居つたのでありまするが、其後の議場の光景、殊に此邊の議場の光景を見ますと云ふと、私は今迄囁に聞いて居りました所の帝國議會は、普選後の議會に於ても、尙ほ昔の舊習を踏襲して居ることを甚だ遺憾とする者であります(拍手)吾々は從來の階級選舉を打破して普選第一次の總選舉に臨み、茲に普選第一次の帝國議會は召集されて居りますから、從來の帝國議會とは今少しく面目を異にして、眞面目に國事を議するやうにして貰ひたいと思ふのであります(拍手)吾々は只今尾崎君から御説明になりました所の……

〔發言者多く議場騒然〕

○議長(元田肇君) 静肅に願ひます

○三宅磐君(續) 決議案の末項に掲げてあります所の第三項に付きましては、純真なる心持を以て之に賛成するものであります、殊に吾々國民が多年要望致して居つた所の普通選舉を冒瀆し、又普選後の此第一議會を冒瀆するが如き所の内閣は、速に總辭職を致すことに依つて、始めて此思想國難の解決の第一歩が出来るものと信するのであります(拍手)斯様な意味合を以ちまして、私は此決議案に賛成を致します(拍手)

○議長(元田肇君) 最早討論終局と認めて宜しからうと存じますから、討論終局と致します

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長(元田肇君) 決を採ります、本案に賛成の諸君の起立を求めます

〔賛成者起立〕

○議長(元田肇君) 大多数であります、可決致しました

(拍手起り議場騒然)

○原惣兵衛君 是より國務大臣の演説に對する質疑に入る筈であります、本日は此

程度に止め、殘餘の日程と共に延期せられんことを希望します

〔「賛成」賛成」と呼ぶ者あり〕

○議長(元田肇君) 原君の動議に御異議ありませんか

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長(元田肇君) 原君の動議には御異議ないと認めます、仍て動議の通り決します、明日の日程は公報を以て御知らせ致します、散會致します

午後五時四十六分散會

昭和三年四月二十六日(木曜日)午後一時十二分開議

○議長(元田肇君) 是より會議を開きます

3、國務大臣の演説に對する質疑

○議長(元田肇君) 是より改めて國務大臣の演説に對する質疑に入ります齋藤隆夫君、齋藤隆夫君は居りませぬか

〔齋藤隆夫君登壇〕

○齋藤隆夫君 諸君我國に於て始めて行はれたる普通選舉直後の議會に於て總理大臣の



爲さるゝ演説に付きましては、吾々は全國民と共に大なる期待を以て之を迎へて居たのであります、然るに昨日承りますると云ふと、其内容餘りに見るべきものなく、大帝國の總理大臣として、而も普選直後の此新時代に處すべき抱負經綸甚だ乏しきことを遺憾とするのである、併し是は姑く差措きまして、願れば現内閣成立以來、丁度一年を経過致したのであります。此間に於て政府の爲したる行動に付きましては、吾々は種々の疑を懷いて居るのみならず、進んで國家憲政の爲に非難攻撃を加へねばないぬ幾多の事實を控へて居る、而して是等の事實は、内治外交に亘つて數ふることの出來ないばかりあるのであります、其中に於て、本員が最も重きを置いて居るものは、憲法政治の運用に關する事であり、申すまでもございませぬが、憲法政治の運用は諸般の政策を超越する國家の根本問題であります、現時の政治組織に於きましては、國家諸般の政策は所謂立憲の通義に依つて決定せられ、其運用に依つて國民の前に現はるゝことは申すまでもないことである、故に先以て此根本を確立するにあらざれば、有ゆる政治問題をば立憲的に解決することが出來ないのみならず、之が本となつて或は政治界の秩序を紊し、國家の爲に憂ふべき事態が起らない、とも限られない吾々は憲政四十年後の今日

に於て、斯の如き問題に對して政府の意見を質さねばならぬことを遺憾とする、併ながら現内閣成立以來の事蹟に徴すれば、吾々が國民と共に此點に付て、一種の疑を懷いて居ることも、決して理由のないことではない、故に本員は此見地に基きまして、是より特に總理大臣に向つて御尋をするのでありますから、其御積りで御聴取を願つて置きます、諸君も御承知の如く、本年一月一日全國に於ける有力なる新聞紙は、田中總理大臣の國政に關する意見を掲載致して居ります、是は田中總理大臣に依つて始められた事ではなくして、歴代内閣の總理大臣が、新年の劈頭に於て國民に對して施政の方針、若くは政治上の所感を述べて、以て國民をして嚮ふ所を知らしめると云ふのは、我國に於ける多年の慣例でございまして、吾々は國家の爲に、大に之を歓迎致して居るのであります、而して其意見の中に如何なる事が現れて居るかと云ふと、本員の質問に關係ある部分を綜合致しますると云ふと、大要次の如きものであります、今年は明治元年から云へば、正に六十一年目であつて、恰も戊辰の年に當るのである、明治元年には長くも明治大帝が五箇條の御誓文を神明に誓はせられ、萬機公論に決すとの有難き御趣旨を定め給ひ、之に依りて立憲政治の第一基石が置かれたのであるが、それから六十一年後の

今年に於ては、立憲政治の新紀元が開かれるのである、即ち普通選挙に依つて選出せられたる國家の選良が、從來よりも一層より多く天下の公論を鮮明に代表する事となるから、是より國務萬端は帝國議會を中心として、其樞軸が著々運轉する、即ち議會中心時代と稱すべき新局面が開展せられるのであつて、是が昭和維新の第一歩である、即ち六十年前の戊辰には明治維新の大業が行はれ、六十一年後の戊辰には、昭和維新の大業が行はれねばならぬ、昭和維新の第一歩は帝國議會を中心として、國務萬端の樞軸を運轉せしむる、言換へれば議會中心の政治の事である(拍手)是が田中總理大臣の意見の大要であります、是は固より尋常一様の意見でありまして、何等卓絶せるものではない、併ながら田中總理大臣の意見としては、稀に見るべき立派なものでございまして(拍手)本員は此意見には全然賛成を表する者であります、洵に田中首相の御意見の如く、吾々は是より昭和維新の大業に向つて猛進せねばならぬ、昭和維新とは何を意味するか、昭和維新は憲法政治の完成であり、國民政治の徹底であります、而して立憲代議政治の下に於きましては、國民の輿論は選挙に由つて、議會に現はれるに依つて、議會の意見は即ち國民の意見である、國民の意見は即ち議會の意見である、故に議會の意見を本として、國

務萬端の樞軸が運轉する、是が即ち議會中心政治であり、國民政治の徹底であり、憲法政治の完成であると云ふに於て、天下一人として議論のあるべき筈はない(拍手)然るに怪むべき事には、此總理大臣を首班とする現内閣の中に於て、是と全然反對の意見を有する人がある、憲政運用の根本に於て、閣僚の間に意見の相違があるに至つては、是れ即ち内閣の不統一を暴露するのみならず(拍手)國家憲政の爲に看過すべからざる大事件であります、而しそれは誰であるかと云ふと、此處に居られる所の鈴木内務大臣である、諸君も御承知の如く鈴木内務大臣は去る二月二十日、國民の前に一の聲明書を發表して居る、二月二十日は如何なる日であるか、我が日本に於て初めて普通選挙の行はれた日である、我國に於て初めて普通選挙を行ひ、全國多數の國民は議會に送るべき己の代表者を選ぶが爲に、喜び勇んで投票所に赴く其日に方つて、内閣の一員が憲法政治の運用に關する聲明書を公にする、之には深き意味が含まれて居る事は申す迄もないことである、然るに其内容を見ますると云ふと、驚くべし、我が國體の精華を辨へず、憲法も知らねば憲法の運用も知らず、立憲政治の何物たるを理解せずして、全然政黨政治を否認し、議會政治を否認する所の白面書生の暴論に過ぎないのである(拍手)故に若し

此事が一個人たる鈴木喜三郎氏の意見として現はれたならば、本員は斯の如き説を捉へて、政府に質問をする、或は議論を交へる如き事は致さない、併ながら 文書は個人たる鈴木氏の意見ではなくして、内務大臣たる鈴木氏の意見であり、同時に 天皇を輔弼し奉りて憲政運用の重責を擔うて居る所の國務大臣の意見として現はれたる以上は、吾々は之を一笑に付し去り、之を看過する譯には參らないのである(拍手)併ながら本員は此文書を捉へて鈴木内務大臣に向つて質問せんとする者ではない、斯う云ふ思想の持主に向つて質問をすることは無益である(拍手)故に内務大臣には質問しない、内閣を總括する所の總理大臣に向つて質問をするのも已むを得ない次第であります(拍手)先づ此文書の初にはどう云ふ事が書いてあるかと云ふと、總選舉の結果を豫定し、且つ之を斷定して居るのである、即ち昨年行はれたる府縣會議員の選舉の結果を根據として、此度の總選舉に當つても、政友會と民政黨との間には大なる開きがある、政友會は非常な大多數を制して、之に據つて政局は安定すると書いて居る、其外鈴木内務大臣は屢々言論機關を通して是と同一の趣旨を宣傳して虚勢を張つて居つたのみならず、更に進んでは此目的を達せんが爲に、自ら選舉の總司令官となつて、全國の地方官に號令を下し、官憲

を濫用して人權を蹂躪し(拍手)民衆の言論を壓迫して國民の政治運動の自由を抑制して、以て前代未聞の選舉干渉を爲さしめたるに拘らず、其結果は此議場に現はるゝ通りではないか、苟も恥を知り責任を辨ゆる政治家であるならば、今日此頃恬然として此議場に顔を曝らすことは出来ない筈である(拍手)次に如何なる事を書いて居るか、我が民政黨の綱領に向つて攻撃を加へて居る、議論の前提として茲に民政黨の宣言の一節を朗讀致します「立憲民政黨は國體の精華に鑑み、一君萬民の大義を體し、國民の總意によりて責任政治の徹底を期するものである、抑々複雑なる現代の社會組織には、正義に基く政治的統制が必要である、其の強き政治上の力は國民の總意を象徴し、國民に對し責任を負ふものでなくてはならぬ、乃ち吾人は普通選舉により、全國民の要求を帝國議會に集中し、天皇統治の下、議會中心政治を徹底せしめんことを要望する」是が宣言書の一節であります、次に政綱の第一條を朗讀致します「國民の總意を帝國議會に反映し天皇統治の下、議會中心政治を徹底せしむべし」此宣言と綱領を見ますならば、立憲民政黨は飽迄も、我が國體の精華に鑑み、一君萬民の大義を奉體して責任政治の徹底を期するのである、而して責任政治を徹底せしむるには自由公正なる選舉に依つて、國民の總

意を議會に反映せしめ、之を本として國務萬端の樞軸を運轉せしむるより外に途が無いのであつて、之を稱して議會中心の政治と謂ふのである(拍手)固より此事は決して吾々が獨占すべき新しき主張ではなくして、立憲君主制を運用する通義であると共に、從來一國に於ける立憲政治家は、何れも此主張を提げて官僚政治家と闘ひ來つたのである。元來君主立憲の目的は何處に在るか、君主立憲の目的は謂ふまでもなく、政治上の責任を政府及議會に負はしめ、君主をして全然無責任の地位に置き、以て君主の神聖不可侵を擁護す是が立憲君主制の最大目的であつて、若し此目的を失つたならば、立憲君主制の精神は立ろに滅びてしまふのである(拍手)田中總理大臣が新年劈頭に於て議會中心政治を高調し、昭和維新は議會中心の政治を行ふのであると迄も斷言せられたのは、全く此趣旨に外ならざるものであると認めて居る、然るに此總理大臣に統括せられて居る所の鈴木内務大臣は何と申して居るか云ふと、議會中心政治と云ふものは、穩かならざる思想である、我國は皇室中心主義の國である(「其通り」と呼ぶ者あり)皇室中心主義の國に於て議會中心の政治を行ふと云ふことは、我國體と相容れない、主權、天皇に在りとの大義を紊亂し、憲法の精神を蹂躪するものであると、斯様に斷言して居るのであるが、

斯る斷言を爲す者こそ眞に我國體の精華を辨へず、帝國憲法の精神を知らざる者の言である(拍手)我國は建國以來皇室を以て中心と爲し、國家統治の大權が皇室に在ることは是は申すまでもない事であり、故に皇室中心は絶対的のものであつて、相對的のものではない、皇室中心は我が國家の創立と共に天に依つて定められたる所の萬古不易の法則であつて、吾々臣民の論議すべきものではない、故に皇室中心主義などと申して、主義と云ふ言葉を用ゆることが、既に穩かならざる言葉である(拍手)主義と云ふ言葉は相對的の言葉であつて絶対的の言葉ではない、甲乙意見が岐れて茲に始めて主義と云ふ言葉が現はれて來る、争の無い場合に於て何ぞ斯の如き言葉を用ゐる必要があるか(拍手)我が皇室中心に就て天下一人として争を起す者は無い、國家統治の中心が皇室に在ることは、世界を照らす中心が太陽であると同じ事である、世界を照らす中心は太陽より外に何物もない、我が國家を統治する中心は皇室より外に何物もない、是は分り切つた事である、故に若し人あり太陽中心主義などと云ふことを申したならば、誰か其愚を嗤はざらんや、太陽中心主義を嗤ふ者は同時に皇室中心主義などと云ふ言葉も亦差控へねばならぬ、故に斯の如き言葉は眞に我が國體の根本を理解し、忠を皇室に誓はんとする

者の口にすべき事ではない、然るに鈴木内務大臣の此文書が主となつて、近頃一部の輩が頻に此文字を濫用する、皇室中心主義など云ふ文字を濫用して、甚しいに至つては之を以て議會中心政治と對照し、此兩者の間に於て何か思想の相容れざるものがあるが如き惡宣傳をなして、以て國民を迷はし、陋劣極まる目的を達せんとする者もあるが、全く無學の致す所とは申しながら、其責任は鈴木内務大臣に在りと謂はざるを得ぬのである(拍手)我が民政黨は斯の如き明白なる事を政綱に加へんとするものではない、吾々は天下萬民が一致確信して之を疑はず、千古萬古に易りなき統治權の所在を闡明するの必要は認めない、吾々は立憲治下の政黨として憲政運用の本義を明にして、以て政府、政黨及國民をして嚮ふ所を知らしむると同時に、吾等の進み行く立憲の大道を指し示したに過ないのである(拍手)即ち我が國體上國家統治の大權は天皇に屬するけれども、之を行はせらるゝに方つては、飽までも民意を嘉納せらるゝのである、大權の嚮ふ所は即ち民意の嚮ふ所である、民意の嚮ふ所即ち大權の嚮ふ所である、即ち廣く會議を興して萬機を公論に決す(「其思想が違ふのだ」と呼ぶ者あり)是が即ち明治維新の大詔であると共に、此聖旨が現はれて憲法の條章となり憲法の大精神となつて居るのである、茲に恭しく

く憲法發布の詔勅を朗讀致します

「朕我ガ臣民ハ即チ祖宗ノ忠良ナル臣民ノ子孫ナルヲ回想シ其ノ朕ガ意ヲ奉體シ朕ガ事ヲ獎勵シ相與ニ和衷協同シ益々我ガ帝國ノ光榮ヲ中外ニ宣揚シ祖宗ノ遺業ヲ永久ニ鞏固ナラシムルノ希望ヲ同クシ此ノ負擔ヲ分ツニ堪フルコトヲ疑ハザルナリ」

此憲法發布の詔勅を拜讀致しますれば、憲法の本質は躍如として輝いて居るのである即ち畏れ多くも吾等の至尊は吾等臣民と共に和衷協同して、以て國政を行はせらるゝが爲に廣く會議を興して萬機を公論に決せらるゝ、之が爲に帝國議會が設けられ國民の代表者が此處に集つて國政を審議し、議會の意見を本として國務大臣の責任を明にし、以て政治上に關して累を皇室に及さざることゝ爲す、是が即ち責任政治であり、議會政治であり、議會中心の政治なのであつて(拍手)其言葉は異ると雖も、其意義は全然同一であります、固より議會政治と云ふ言葉は是は憲法上の言葉であつて、政治上の言葉ではない、何れの國の憲法に於ても議會政治と云ふ言葉は現れて居らないけれども、憲法を運用するに方つては議會政治は必然の結果として現れて來るのである。即ち議會政治の有る所、眞の憲法政治である、議會政治無き所、眞の憲法政治なしと斷言して少しも差支ない、

若し此道理を無視して責任政治を否認し、議會政治を否認し、政府も議會も一切政治上の責任を負はぬとしたならば、政治上の責任は一體誰が負ふのであるか、一天萬乗の君に政治上の責任を負はしめ、以て立憲政治を行ふことが出来ると思ふのは、憲政の何ものたるを知らざる天下の大馬鹿者である(拍手)然るに鈴木内務大臣は見易き此道理を理解する所の力はない、而も我國に於て初めて行はるる普通選挙の當日に當つて、議會政治否認を聲明して、以て憲政を破壊せんと企つるに至つては、是れ眞に許すべからざる罪惡である、更に之に關聯して如何なることを書いて居るかと云ふと、議會中心の政治と云ふものは民主主義の潮流に棹す英米流のものであると云ふことを書いて居る……

〔此時發言する者多く議場騒然〕

○議長(元田肇君) 靜肅に願ひます——靜肅に願ひます

○齋藤隆夫君(續) 更に之に關聯して、どう云ふ事を書いて居るか、言ふと議會中心政治と云ふものは、民主主義の潮流に棹す英米流のものであると云ふ事を書いて居る、何たる誤であるか、米國は民主主義の國ではあるけれども、三權分立主義を本として居るから、議會中心政治などと云ふものは行はれて居らない、英米を以て民主主義の國と

は何を根據として言ふのであるか、英國は昔から君主主義の國である、今日英國の主權は依然として國王の手に握られて居ります、唯此主權を行はせらるゝに方つて、飽までも國民の意見即ち議會の意見を中心とせらるゝに依つて、國王の意見と議會の意見とが東西に岐れたことは、少くとも二百年以上現れたことはない、故に若し君意民心が一致し君民同治の政治を行ふ國は悉く民主主義の國であると云ふならば、世界に於ける立憲君主國は悉く民主國と言はねばならぬのである、さう云ふ馬鹿な道理が何處にあるのか(拍手)一體本員は此大切なる議政壇上に立つて、斯の如き學理上の議論を爲すことは避けなければならぬことは十分に承知して居る、併ながら鈴木内務大臣の此文書が本となつて、近頃事理に暗き一部の輩が斯う云ふ暴説を受賣りして、議會中心政治は英米の民主主義であるなどと云ふ譯も分らぬ事を宣傳して居るに依つて、此機會に於て斯る愚論を一掃して、以て固く將來を警めて置きたいのである(拍手)一體鈴木君などが歐米の政治などを論ずることが間違つて居る、苟も文明政治を論せんとするならば、顔を洗つて出直して出るが宜しいのである(拍手)

○議長(元田肇君) どうか質問の要旨を述べて戴きたい

○齊藤隆夫君(續) 次にどう云ふ事を申して居るか云ふと、更に進んで政黨内閣をも否認して居るのである、即ち我が憲法上内閣の組織は天皇の大權に屬するから、政黨員の多寡に依つて内閣が生れると云ふが如き外國の事例と對照することは斷じて許されないのであると、斯う云ふ事を書いて居る、是は明かに官僚の口吻であつて、全然政黨内閣を否認するものである(拍手)我が憲法上内閣の組織が、天皇の大權に在ると云ふことは申すまでもない、併ながら是は單り我國の憲法ばかりではない、世界何れの君主國の憲法に於て、内閣の組織は君主の大權に在つて、政黨が内閣を組織せなければならぬと云ふが如きことを書いて居るものは一つもない、故に政黨内閣は憲法上の問題ではなくして、憲法運用に關する問題である(拍手)憲法上に於ける君主の大權が、君主の自由意思に依つて最も立憲的に且つ國民的に運用せられる所に政黨内閣が生れて來るのである、而して是が憲政を運用する最善の途であるが故に、吾等の先輩政治家は多年の間此目的に向つて戰つて來たのである、例へば政友會の前身自由黨の創立者板垣伯は言ふに及ばず、現政友會の總裁たりし伊藤、西園寺の兩公より原、高橋兩先輩等が或は政黨を創立し、或は政黨を擴張し、或は議會を解散して國民の輿論を求めたのは何が故である

か詰り政黨内閣を樹立し、政黨政治を行はんが爲に外ならぬ、若し政黨内閣を否認し、政黨政治を否認して、一部少數の勢力を基として政治を行はんとするならば、政黨の創立は無意義である、政黨の擴張も無意義である、議會の解散も全く無意味となつてしまふのである(拍手)政黨の一年生である鈴木君などには斯う云ふことは分らないのである、分らない者は控へて居るが宜しい、多年官僚の畑に在つて政黨の歴史を知らず、政黨に對して何等の經驗もなければ貢獻もない者が、政黨内閣の一員となつて居ることが己に不自然の事實である、然るに自ら政黨内閣の一員であることを打忘れて吾等の先輩政治家が多年心血を注いで造り上げたる政黨内閣に向つて弓を彎き、而も政府自らが議會を解散して國民の輿論を求め、政府に對する國民の審判が下らんとする其日に當つて突如として政黨内閣否認の聲を擧げるのは何故であるか、言ふまでもなく選舉界の形勢政府に不利と見て取つたから、假令選舉に負けても辭職はしない、何となれば閣臣の任免は天皇の大權であつて、國論の左右する所ではないと主張し、大權の裏に隠れて民意を蹂躪し、以て政權を維持せんとする野心から起つたことである、何たる不埒千萬なることであるか、斯の如き政治家が政黨に在り、而も領袖の一員たるに至つては、政黨の耻

辱是より甚しきものなし、斯の如きものが政黨内閣の一員であり、然も政府樞要の地位を占むるに至つては政府の失態、政府の醜態、是より大なるものはないのである（拍手）田中總理大臣は此始末を如何にせらるゝ積りであるか、憲政の運用に付て……

○議長（元田肇君） 齋藤君

〔發言する者多し〕

○議長（元田肇君） 議長は成べく言論の自由を尊びます、尊びますが、只今は質問の時機であつて彈劾の演説は成べく……（議場騒然）質問の要旨を……（議場騒然）

○齋藤隆夫君（續） 議長より注意がございましたけれども、本員は質問の結論に到達するが爲に述べて居るのであつて、本員の議論は質問の要點であります、憲政運用の根本義に付て閣員の間意見の相違がある、總理大臣は議會中心主義を高調し、内務大臣は之を否認する、總理大臣は政黨の總裁となつて政黨内閣を組織し、内務大臣は政黨内閣を否認する、どうして内閣を統一して眞の立憲政治を行ひ、上は 天皇輔弼の責任を全うし、下國民の期待に副ふことが出来るのであるか（拍手）加之斯の如き思想を有する人が政府樞要の地位を占めて居ることが、今日國民思想の上にどう云ふ影響を及ぼすもの

であるか、思ふに今日の時代に於て政黨政治を否認し、議會政治を否認するの思想は、同時に立憲政治を否認するの思想である、立憲政治を否認するの思想は、我が政體とは全然相容れざる危険思想である、所謂危険思想なるものは決して左傾派のみに限られたものではない、我が國體の根本を傷けんとするが如き極端なる左傾派は、天人共に許さざる危険思想の最も大なるものであるが、是と共に立憲政治の根本を破壊し、專制政治の昔に返らんとするが如き極端なる右傾派も、是亦危険思想の大なるものとして之を一掃するにあらざれば、國家の安寧秩序は斷じて維持することは出来ぬのである、田中總理大臣は昨年四月、組閣勿々國民の前に政府の政策を發表して居られます、其中にどう云ふことが書いてあるかと云ふと、其一箇條には國民精神の作興と云ふことが書いてある、國民精神の作興極めて同感であります、固より吾々は現内閣の力に依つて、田中總理大臣の力に依つて國民精神が作興出来るものであるとは期待して居らない、併し假令此事が行はれぬとするも、此上我が國民精神を悪化せしめただけのことは努めなければならぬ、然るに鈴木内務大臣の如き不健全なる思想の持主と手とを携へて臺閣の上立ち、七千萬國民に向つて號令して居ることは、如何に我が國民の思想を悪化せしめて



居るか云ふことに氣が付いて居るか(拍手)本員の見る所に依れば、鈴木君が内務大臣となられて以來、我が國民の一部には確に穩かならざる思想が起つて居る、其思想は何から起つたのであるかと云ふと、詰り鈴木君の人格を背景として起つたものに相違ない。今日世人は鈴木君に向つて何と言つて居るか、腕の喜三郎——腕の喜三郎とは何のことであるか、斯様な言葉は博徒破落戸仲間用ゐられる言葉である、世人が鈴木君を見ること斯の如きものである、斯う云ふ人格者が内務大臣で居る限りは、我が國民思想は悪くなつても決して良くなるはない、而して此惡思想の現はれたるものが或は直接行動となり、或は暴力行爲となり、動もすれば人身に向つて危害を加へ、或は言論機關を襲撃して、之を脅迫すると云ふが如き幾多の不法行爲が全國到る處に於て行はれて、社會人心の不安は實に言ふに忍びざるものがある、然るに警察權は之に向つて十分なる活動を爲さないではないか、何が故に警察權が活動しないか、警察權を指揮監督して居る所の鈴木内務大臣の頭が既に穩かならざる思想に囚はれて居るからである、(拍手)元來本員の見る所を直言すれば、鈴木君の頭は冷酷なる所の法律に囚はれて居る、世に法律あることを知つて政治あることを知らぬ、否、法律を執行し權力を行使すること、是れ即ち

政治の全體なりと心得て居るのであらう、是が抑々誤りの本であつて之を大にして憲法の運用を誤り、之を小にしては法律の運用を誤るのである、若し法の執行を以て政治なりと心得、憲法に違背せざれば立憲政治の能事足りとするならば、我國の憲法は全く無意味となるのみならず、憲法の明文に違背せずして、極端なる專制政治を行ふことも出來得るのである、例へば議會の解散は 天皇の大權であるに依て、引續き之を行つたならば議會の存在を奪ふことが出来る、不裁可權も 天皇に屬するに依て、引續き之を行つたならば兩院を通過したる法案を葬り去ることも出来る、法律が必要であるならば緊急勅令が出来る、豫算が不成立であつたならば、前年度の豫算を行ふことが出来る、國費が必要であつたならば、財政上の非常處分をすることが出来る、而して凡そ是等のことは憲法の明文には違背をしないけれども、決して政治と稱するものではない、憲法の執行であつて憲法の運用ではない、專制政治であつて立憲政治ではない、此區別を明にせざるものは、憲法政治などを論ずる資格はないのである、法律に於ても亦然り、鈴木君の頭には法律を執行する考はあらうが、法律を善用する考は少しもない、其證據には鈴木君が内務大臣となられて以來、内務行政に現れたる所の事實は悉く法律の執行であ

り、權力の濫用ではあるが、眞に國民の自由と幸福を増進する政治と目すべきものは一つもない。是より我々の同志より質問せらるゝ所の地方官の大更迭、即ち人事行政權の濫用より、選舉干渉、或は國家事業を利用して地方人民を壓迫し、以て與黨の擴張を圖る等の事は悉く法律の執行であり、權力の濫用であつて、決して政治と稱すべきものではない、惟ふに鈴木君の頭には政治上の理想と云ふものはないのであらう、若し苟且にも鈴木君の頭に政治上の理想があるならば、其理想は自由政治の理想ではなくして、壓制政治の理想である、文明政治の理想ではなくして野蠻政治の理想である。我が日本帝國に野蠻政治、暴力政治を行はんとするのが鈴木君の理想であるに相違ない、苟も今日の時代に當つて政黨政治を否認し議會政治を否認するの思想は、此思想から流出たるものであつて、決して一時の出來心と見ることは出來ないのである、斯う云ふ政治家は日本には用はない、斯の如き政治家は日本に於ては無用であるのみならず、有害である、斯う云ふ政治家が政黨に居ることは政黨の恥辱である、斯う云ふ政治家が政府に居ることは政府の恥辱である、斯の如き政治家は速に日本を去つて伊太利にでも行つて「ムツソリニー」の下にでもなれば宜い、之を要するに以上本員の述べたる事は、主として鈴木内務大臣の

言動に關することでありませうけれども、是は決して鈴木君一人の言動と見ることは出來ない、鈴木君一人の責任と見ることは出來ない、内閣を統轄する所の總理大臣は言ふに及ばず、今日に至るまで鈴木君の言動を默認し、是と聯合したる内閣全體の責任であることは論を俟たぬ次第である、故に本員は特に總理大臣に向つて質問をするのであります、苟も國家の運命を双肩に擔うて、憲政運用の重責を擔はれる所の總理大臣たる者は、以上本員が述べたる所の論旨に基き、鈴木内務大臣の此文書に對する意見を明にせられたい、此文書に現れて居る意見に賛成であるか、反對であるかそれを明にせられたい、更に本員の述べたる論旨に基き此文書に對する本員の議論に賛成であるか、反對であるか之を明にせられたい、詰り鈴木君の文書に現れたる此意見に賛成であるか、反對であるかを最も明白に答辯をせられたい、而して誠心誠意を以て本員の質問に答辯すると同時に、此問題に對して廣く國民の批判を求められんことを切望するのであります、  
(拍手)

〔國務大臣男爵田中義一君登壇〕

○國務大臣(男爵田中義一君) 只今齋藤君の御質問に對して御答を致します、中心と云

ふことに付ての問題は議論の餘地がないことであり、唯々政治の運用と云ふことに付きましては、苟も憲法政治に於ては輿論公議を嚮はせられて、之に依て政治の運用が行はれるものであります、即ち議會は輿論公議の反映する所であるのであります、此意味に於て鈴木内務大臣も何等異論がないことでもあります、異議がないのみならず鈴木大臣の申された言葉に於て議會否認と云ふことはない、私は考へて居るのであります、憲法の解釋と云ふことは別でありますけれども、運用の上に於て議會を否認しては居らぬものだと私は考へて居ります、是だけ申して置きます

○議長(元田肇君) 鈴木内務大臣——鈴木内務大臣に發言を許します

〔國務大臣鈴木喜三郎君登壇〕

○國務大臣(鈴木喜三郎君) 齋藤君は私に向つて御質問でないのでありますから、私は齋藤君に御答申すのではない、唯々私は此機會に於きまして、先般出しました所の聲明書に付きまして一言辯明しやうと思ふのであります、私の出しましたる聲明書中に於きましては、一言半句議會を否認致しませぬ、又政黨内閣の發生を阻止するものではありませぬ、宜しく靜かに聲明書を御一讀下さつたならば、私が議會政治を否認したと云ふ

ことは、徹頭徹尾發見する餘地はないのであります、是だけ申して置きます

○議長(元田肇君) 齋藤隆夫君

〔齋藤隆夫君登壇〕

○齋藤隆夫君 田中總理大臣の御答辯は洵に簡單でございまして、要領を掴むことが出来なかつたのであります、故に改めて質問を致します、鈴木君は明に斯う云ふことを言うて居る、議會中心政治と云ふものは我が國體と相容れない、主權天皇に在りとの大義を紊亂し、帝國憲法の精神を蹂躪するものであると云うて居るではないか、議會中心政治が國體と相容れない、帝國憲法の精神と矛盾するものであると云ふならば、議會政治其ものも我が國體と相容れず、憲法の精神と相矛盾するものであると言はねばならぬものではないか、議會中心政治と、議會政治と、何處に區別があるか、責任政治と云ひ、議會政治と云ひ、議會中心政治と云ひ、其言葉は違ふけれども其意味は全然同一である、議會中心政治を否認する者は即ち議會政治を否認する者ではないか、議會政治を否認する者は即ち政黨政治を否認する者ではないか、故に鈴木君の此文書に賛成であるか反對であるか之を明にせられたならば、本員の質問は盡きるのである、賛成であるか、

反對であるか、重ねて御答辯あらんことを希望致します(拍手)

〔國務大臣男爵田中義一君登壇〕

○國務大臣(男爵田中義一君) 只今前回に御答辯を致した通りであります、而して鈴木内務大臣は私の精神に共鳴をするのみならず、寧ろ賛成をして居る一人であります、私の閣員に左様な意見の異つた者は居らぬと云ふことを申し上げます。(拍手)——(中略)

○議長(元田肇君) 西尾末廣君

〔西尾末廣君登壇〕

○西尾末廣君 諸君、今期の議會は我國政治史上に於きまして特筆大書すべき重大なる意義のある時機であります、換言致しますならば、今日の日本の國情は内政と言はず、外交と言はず、更に産業界に於きましても、色々な點に於て行詰つて居るのであります、何とかしなければ日本はもう立つて行けないやうな状態になつて居るのであります、此行詰りを打破りまして、新しい明るい新日本を建設すべき今重大なる時機に際會して居ると思ふのであります、更に又從來日本人民の極めて少數の部分が政治をやつて居つたのが、少數の人々の政治に依つては國家全體を隆昌ならしめることが出来な

いやうになつて來た、そこで出来るだけ國民大多數の者に權利を與へ、義務を負はしめ即ち一致協力に依つて新しい日本を建設しなければならぬと云ふ意味で、普通選舉が實施されたのであらうと思ふのであります、それ故に此重大なる一轉換期に於きます總理大臣の施政方針たるや、極めて多岐に涉り、極めて新政策を明瞭に示し、新しい日本は如何なる方面に方向を目指して歩み出すべきやを暗示するものがなくてはならぬことを吾々は期待して居つたのであります、然るに昨日の總理大臣の演説は單に山東出兵——總理大臣の御得意である所の山東出兵、さうして共產黨事件に對する彈壓を手柄顔に報告するのみに止めまして、新しい日本が如何なる方面に進むべきかと云ふ、總理大臣として最も力瘤を入れなければならぬ點に於きまして、一言も言及し得なかつたと云ふことは極めて遺憾千萬であります(拍手)吾々は總理大臣の演説を聽きまして、田中總理大臣は此新しい形勢が理解出来ないのか、若くは新しい形勢が理解出来ましても、之に對する能力がないのではないかと云ふことを疑はざるを得なかつたのであります(拍手)記憶せよ、田中總理大臣以下の大臣諸公よ、諸君及諸君の背景を成して居る所の人々が、今日裕かに明るい生活を送つて行くことの出来る爲には、國民の九割五分を占める所の

一般民衆が朝な夕なに働いて居ると云ふことを考へなければならぬのであります、而も彼等は朝な夕なに一生懸命に稼ぎながらも、尙ほ自らの生活すらも人間らしい生活を支へることが出来ないで、常に生活不安に悩んで居ると云ふことを記憶して貰ひたいのであります。「分つて居る」と呼ぶ者あり而して又彼等の中の先驅者は、自分自らの力に依りまして自分自らの生活を改善し、自分自らの運命を開拓する爲に或は組合運動を爲し或は政治運動を爲すやうになつて居るのであります、之に對しまして田中大將始め自分の生活を保障されて居ると云ふことの御恩返し爲に、是等の運動を助長しなければならぬ筈であるにも拘らず、彼は何等其方針に基くことなく、唯々徒に之を弾壓の一途に依つて之を撃破なさんとして居るのであります、記憶せよ、田中總理大臣以下の人も、無産大衆の此どん底生活から自分自からの運命を切開かんとする所の、人間らしい生活を爲さんとする所の、此伸上らんとする所の努力は、單なる弾壓に依つて撃破することの出来るものではない、思ひ見よ、歴代の内閣が常に無産階級運動に對する弾壓が加へられるにも拘らず、依然として無産階級運動は力強く運動を續けて居るではないか、今度の總理大臣の演説の中に斯の如き事件の因つて生ずる所の原因を究め、各方面に互

つて出来るだけの施設と用意とを盡し、抜本塞源の道を考へる積りであり、斯様に聲明して居るのであります、併ながら此總理大臣の演説は重要な點と重要でない點を誤つて居るのであります、今日共産黨事件と云ふことの事實を詳細に述べるよりも、共産黨事件が起るべき、即ち社會環境が如何なるが故に斯様なものが起つたかと云ふ點に重大な注意を向けられ、此方面に對して吾々は斯の如き政策を持つて居ると云ふことのみ重點を置くべきであつたと吾々は思ふのであります（拍手）洵に一國の勞働政策と云ふものは、實に其國の運命を左右すべき程に重要な問題であります、而も此勞働政策と云ふことの重要さは、其國の文明が進むに従つて、愈々益々重要な性質を帯びて來るに至るのであります、此重要な性質を持つて居りまする勞働政策に對しまして、田中内閣は其組閣以來何等積極的見るべきものがないのであります、此勞働政策に對しまして、田中内閣は如何なる經綸を持つて居るか、今後どう云ふ方針で行かうとするかと云ふことを具體的に明に説明を求めたいのであります、吾等の見る所に依りますと、田中内閣は其組閣以來勞働政策に對しては、極めて反動的であると吾々は信じて居る者であります、例へば彼の昨年八月三十日信州岡谷に於ける山一林組製絲工場の一千人の女

工が、總同盟全日本製絲労働組合に加入の自由と、さうして極めて穩健なる所の待遇改善の要求を提げて會社に對抗致しまするや、此會社と労働者との間の對立關係に於ける、其中間に於ける警察官の態度や極めて怪しからなかつたのであります、例へば東京方面から此労働爭議に指導する爲に幹部が参りますると之を全部檢束する、又其幹部を檢束せしめて置きまして、其隙に女工を其故郷に送り還さしめ、さうして會社側をして勝利に——有利なる地位を占めさせるべく方法を講じて居るのであります、或は又町の消防隊、青年團等が、或は爭議團は東京から爆弾を持つて來たとか、或は東京から暴徒が襲來するとか云ふ流説を流布致しまして、町民に反感を抱かしめ、或は警鐘を亂打するやうな暴擧が行はれたにも拘らず、警察官は之に對して何等治安を維持すべき方法を講じなかつたのであります、更に又五百數十名の寄宿舎に居る可憐なる女工達が屋外に締出され、而も雨の降る中に、いたいげなる女工達が雨に濡らされて居るにも拘らず、之に對して當局は會社の此暴擧を黙過し、之に對して何等の保護を加へると云ふことをしなかつたのであります、此外或は演説を中止するとか、要するに此當時に於ける警察官の態度は、徒に資本家側の御用を勤め、労働者の戰鬥力を破壊すると云ふ方法に出でたの

103

であります、世間傳ふる所に依りまするならば、小川鐵相は此處等の方面に政治的地盤關係があると云ふことの爲に、特に警察官が斯様な方法を執つたのではないかと云ふ世間に流説があるのであります、此點に對しまして事實であるか、事實無根であるか、其間の消息を小川鐵相から答辯を求めたいのであります、更に反動的労働政策のもう一つの事例は、野田爭議に於て見ることが出来るのであります、野田の労働爭議に於きましては斯様な事があつたのであります、會社の方は常に内務省と諒解がある、諒解があると云ふことを流説致しまして、それを守本尊の如く彼等は力頼みにして居つたのであります、さうして此事を立證する爲には、福永千葉縣知事が新聞紙を通じて社會に語つて居るのであります、國民新聞千葉版の三月十四日號に於きまして斯様に彼は語つて居るのであります、「私が積極的に乗出さぬのは會社が乗出することを斷然拒絕して居る爲でもあるが、内務省が省の方針として手を出してはならぬと通牒して來たからである、内務省が斯うした方針を執つて居るのは、畢竟會社側の宣傳が内務當局へ徹底して居るに反し、爭議團側の宣傳が行届いて居ない結果と見るより外仕方がない」斯様に彼は言つて居るのであります、此事を見ましても、如何に會社と内務省との關係が世間の誤解を招

くべき何等かのものがあつたのではないかと云ふことを想像されるのであります——質問を致します、政府は此野田争議に對しましては如何なる處置を執つたのか、或は傍觀して居つたのか、更に内務省が省の方針として手を出してならぬと言つたのが本當であるのか、嘘であるのか、其他行徳事件に於きまして、警察官は其會社側の幹部の指揮の下に、暴力團が吾々の事務所を叩き壊すのを、じつと見て居つたのであります、此點に對しまして司法官は是が妥當であると考へて居るのかどうか、此點を御答辯を願ひたいのであります、其他例を挙げれば限りもありませんが、一切の反動的労働政策は、健全なる労働運動を阻害するのみならず、随つて國家産業の發展を危殆に瀕せしめ、さうして又斯う云ふ所にこそ、吾々の賛成の出來ない憂ふべき共產黨事件の起るべき原因が存在すると吾々は思ふのであります、斯様に吾々は考へるのであります、此野田及岡谷の労働争議に對しまして、今後斯様な争議に對しまして、如何なる處置を執る考であるかと云ふことの御答辯を要求するものであります、次には労働立法に對しまして質問を致したいと思ひます、労働立法は労働問題の合理的解決竝に労働運動の健全なる發達の上に、極めて重要な使命を有つものであります、然るに田中内閣は其組閣以來、何等

労働立法に對しまして、積極的な態度を示して居らないのであります、例へば五十四議會の開會前に於きまして、労働組合法を提出するの意思がないと云ふことを言明して居る、更に又今期議會にも労働組合法を提出する意思なきかの如き状態である、是は何故労働組合法を提出しないのか、此の點に對しまして首相の答辯を要求するものであります、次には國際労働條約の問題であります、毎年政府は莫大の費用を以て我國から代表者を「ジュネーブ」の國際労働總會に出して居る、而して其處では幾多の條約案が採擇されたにも拘らず、政府は二十六箇の條約案の中、僅に七つしか實施して居らないのであります、是は折角費用を使つて、さう云ふ會議に送りながら、何故此採擇された條約案が批准出來ないのか、其批准の出來ない理由を御答辯を願ひたいのであります、更に今日の健康保険法に於きましては、極めて申譯的の貧弱なものがあるのであります、抑々健康保険法の精神は、國家産業の能率を増進する爲に、出來るだけ労働者の健康を保護しやうと云ふことに、其精神が存在すると吾々は理解して居るのであります、然るに此最も重要である、最も自由である働く人々の此健康を保護することに於て、政府は年額僅か四百萬圓足らずのものしか出して居ないのであります、斯様なことで我國の如き

人口の多き、而も勞働力に依つてとなくては、其國策を樹立して行けないやうな國柄に於きまして、僅か四百萬圓に依つて勞働者の健康が保護される譯がないのであります、吾々が醫者に行つても、醫者が十分診て呉れない、恐らく諸君の中には醫者もあるかも知れませぬが、今日の醫者は仁術でない錢儲けをやつて居る所に、引合はないやうな健康保險料を持つて行つては、十分にしないのが當然であります、それ故眞に勞働者の健康保險法を實施する爲には、眞に勞働者の健康を保護する爲には、まだ／＼多くの負擔金を政府が出さなければならぬことを、吾々は信するのであります、即ち政府は今日の保險法に依つて、事足れりとするのであるか、それとも之を今後如何やうに改革しやうとするのか、此點に付て御答辯を要求するものであります、次には政府の農民政策に付て御答辯を要求するものであります、御承知の如く日本國民の四割八分強は農民であります、其生活は一切の階級の中でも最も疲弊困憊して居る現状、此事實は田中大將——田中首相に於きましても否む事が出来ないと思ふのであります、此疲弊困憊のどん底に落ちて居る所の農民を、如何にして日本人民として明るい生活を爲さしめるやうにすることが出来るか、此點に對しまして具體的な政策を表明されんことを要求するものであります、更に年々小作爭議は一千五百件に上らんとして居る、此小作爭議が起る重要な原因は地主の行ふ所の立入禁止、或は立毛差押等の不當なる行爲に對しまして、何等政府が積極的な處置を執らないことから起つて來るのであります、之が爲には一箇年に一萬二千町歩の耕地が、地主に依つて取上げられ、其結果として生活を奪はれる農民が年々澤山あるのであります、更に官憲は農民の此窮狀を自らの力に依つて救はうとする所の農民組合に對しまして、暴力行爲取締法を以て彈壓を加へて居るのであります、此暴力行爲取締法は其成立致しまする當初に於きましては、是は決して是等の農民組合などには適用しないことを彼等は言明して居るのであります、それに拘らず之を何故適用して此農民組合の彈壓をするか、此點に付ても御答辯を要求するのであります、斯の如き反動的農民壓迫政策は、農村不安を激成し、農民生活を脅威し、重要な國家産業たる農業を危殆に瀕せしめる虞のあることを、吾々は憂へて居るのであります、此點に對しても重ねて御答辯を煩したいのであります、即ち私共の信じます所に依りますれば、斯の如き多數の小作爭議、斯う云ふものは、小作立法の完成に依つてこそ、初めて之を最少化することが出来ると思ふのであります、さうして又此小作立法は多年多數の農民大

ります、更に年々小作爭議は一千五百件に上らんとして居る、此小作爭議が起る重要な原因は地主の行ふ所の立入禁止、或は立毛差押等の不當なる行爲に對しまして、何等政府が積極的な處置を執らないことから起つて來るのであります、之が爲には一箇年に一萬二千町歩の耕地が、地主に依つて取上げられ、其結果として生活を奪はれる農民が年々澤山あるのであります、更に官憲は農民の此窮狀を自らの力に依つて救はうとする所の農民組合に對しまして、暴力行爲取締法を以て彈壓を加へて居るのであります、此暴力行爲取締法は其成立致しまする當初に於きましては、是は決して是等の農民組合などには適用しないことを彼等は言明して居るのであります、それに拘らず之を何故適用して此農民組合の彈壓をするか、此點に付ても御答辯を要求するのであります、斯の如き反動的農民壓迫政策は、農村不安を激成し、農民生活を脅威し、重要な國家産業たる農業を危殆に瀕せしめる虞のあることを、吾々は憂へて居るのであります、此點に對しても重ねて御答辯を煩したいのであります、即ち私共の信じます所に依りますれば、斯の如き多數の小作爭議、斯う云ふものは、小作立法の完成に依つてこそ、初めて之を最少化することが出来ると思ふのであります、さうして又此小作立法は多年多數の農民大



衆が要望する所であります、政府は之に對しまして、如何なる感を持つて居るか、如何なる處置を爲さんとして居るか、是亦御答辯を要求するものであります、三には俸給生活者の待遇の問題に付て、答辯を要求するものであります、今日工場労働者には工場法及不完全ながらも健康保険法と云ふものがありますけれども、今日「サラリーマン」には、何等の政府の力を以て爲す所の保護法が制定されて居ないのであります、而も今日日本に於ける「サラリーマン」に對しては此「サラリーマン」が、どう云ふ風に考へるか、どう云ふ風の行動を開始するかと云ふことが、重要な性質を持つて居るに拘らず、之に對して何等の保護立法を制定せないと云ふのは、如何なる趣旨に依つて之を爲さないものであるか、此點に對して御答辯を要求するものであります、次には下給官吏の増給問題であります、上は總理大臣から、下は巡査に至る迄、其仕事に對する充實さと、其仕事に對する努力は同じなのであります、而も上級の人とは、中々羨ましいやうな立派な費澤な不必要な暮しをして居る、而も巡査諸公其他の下級官吏は常に腰辨と世間から蔑しまれるやうな惨めな生活をして居るのであります、是は單に其人とが——總理大臣と云ふ者と巡査と云ふ者とは、社會に奉仕する所の努力がそんなにまで俸給の開きを爲した

り、間隔のあるべきものではないと思ふのであります、下級官吏の生活を保障せよ、下級官吏の生活が不安に襲はれぬ程度に保障しなければならぬと吾々は考へるのであります(拍手)此點に對しましても、當局の御答辯を要求する者であります、更に屋外労働者に對しましても、何等見るべき保護法はないのであります、今日漏れ聞く所に依りますと、屋外労働者の保護法と致しまして、勞務者扶助法と云ふものを立案しつつあることを聞くのであります、併し其扶助法なるものは、其勞務者を扶助すべき責任の所在が雇主にあります、御承知の如く此屋外労働者の大部分を占める所の建築労働者其他の屋外労働者を雇ふ所の所謂雇主と云ふものは、極めて少額の土木事業でありまして、投機的にやつて居る者が澤山あるのであります、斯う云ふ不安定な雇主に其責任を負はしむることは、極めて労働者に取つては不安定ではないかと思ふのであります、私の信ずる所に依りますれば、是は矢張り從來の如く其雇主から保険料を取立てまして、政府の責任を以て、或は健康保険法或は工場法の如く、政府の力に依つて屋外労働者も保護すべき方法を講ずることが、宜くはないかと信じて居るのであります、此點に付きまして何故之を政府の責任としないか、一雇主に之を委託するかと云ふこと理由を拜聽

致したのであります、次に中小商工業者に對する質問を致したのであります、昨日三土大藏大臣の御演説の中には銀行問題の整理に關しまして、得意らしく彼は説明して居ります、其中に「而して現在整理未済の銀行は十三行であります、其預金總額は六千萬餘圓でありまして、當初の預金額の約一割に過ぎませぬ、隨て一般經濟界に對する影響も極めて少いのであります」と述べて居るのであります、併し是は三土大藏大臣が此一般經濟界と述べて居る所は、即ち中産階級以上の人々の經濟界を指して居ることが、前後の文句に依つて明かになつて居るのであります(拍手)「ノウ〜」現に一昨日或人が私共の本部へ参りまして、銀行が潰れた其爲に吾々は未だに預金を受取ることが出來ない、何とかして貰へぬかと云ふことを言うて來て居るのであります、是は一つに過ぎませぬが今日何かの新聞の論説にもありましたが、斯様に今日、中小商工業者は我が經濟界に於きまする臺灣銀行以來の恐慌の影響を受けまして、未だに金融が逼塞して非常に困つて居るのであります、三土藏相の言ふが如く極めて影響が少ないのではなく、中産階級以下の人々には極めて重大な影響を與へ、而も未だにそれが直つて居ないのであります(拍手)元來中小商工業者と云ふものは、大工業組織の發展に連れまして、漸次そ

れが没落の過程を辿るべき運命に在るのであります、近時に於きましては以上の銀行問題から端を發しました經濟界の恐慌に依りまして、急速なる逼迫状態に置かれて居るのであります、私は之に對しましては一つの意見を持つて居るのであります、吾々中産階級には、然らば金融機關の資金とすべき金がないかと云ふのに、吾々中産階級以下の者に依つて大部分集められた所の郵便貯金と云ふものが今日存在する、而も此郵便貯金は、吾々の中産階級以下の物であるにも拘らず、吾々の爲に利用されず、多くは支配階級の爲に、富裕階級の爲に利用されて居るのであります、此預金部の中の郵便貯金の金を基金と致しまして、茲に庶民銀行を經營致しまするならば、是等の中小商工業者の金融機關を滑かにすることが容易に出来るものと信する者であります、之に對しまして大藏大臣は如何の意見を持つか御答辯を要求する者であります、更に税制に關する御答辯を要求する者であります、現在の税制は有産階級に軽く、勤勞無産大衆に重いのであります、吾人は勤勞無産大衆の此惱んで居る所の生活不安を救済する爲に、勤勞無産大衆の生活を安定ならしむる爲に、現時の税制の系體を變革することを要求する者であります、例へば税金の擔稅能力の有る者からは多く取立て、擔稅能力の少い者に之を軽く

すると云ふ方針の下に於きまして、税制の改革を爲されんことを吾々は希望するのであります、例へば有産階級の負擔は輕いのであります、財産税、土地増價税等を設定し、或は資本利子税、相続税、所得税等の高率累進賦課を吾々は要求する者であります、之に對しまして、大藏大臣は如何なる意見を持たれて居るのであるか、次には賤視觀念に對しましての質問をする者であります、現時我國の國民の一部に對しまして、在來の賤視觀念は未だ亡ぼされずに、即ち先般名古屋及福岡等の軍隊内に於て起つた不祥事件は、其原因が此賤視觀念の上に在ることが吾々は明かであることを信ずるのであります、此一般賤視觀念を如何にして絶滅すべきか、之に對して如何なる方策を持つて居るかと云ふことの御答辯を要求する者であります、更に次には失業問題に付きまして御答辯を要承する者であります、今日失業者が澤山出て居りますが、失業者が澤山あると云ふことは、それは勞力の浪費であります、働く意思を持つて居る、働く能力を持つて居る、其者に國家が仕事を與へることが出來ないで遊ばして居ると云ふことは、極めて重大なる勞力の浪費であります、更に吾々の知る所に依りますると、警視廳の發表に依る犯罪數の統計に依りますれば、年々生活不安から來る所の犯罪者の數が殖えつゝあ

るのであります、是は實に失業問題と重要な關係があるのであります、更に又能く諸君に依つて論せられます所の思想問題が悪化するとか、悪化しないと云ふことも此失業問題に對しまして、重要な關係があるのであります、或は此失業者になつた原因に付きまして、或者は言うであらう、お前が懶けるからだ、お前が病氣だからだ、併ながら今日に於ては何故其人間が懶けるか、何故其人間が病氣になつたかと云ふことを、仔細に之を研究しまするならば、孰れも多くはそれは社會的原因に由るのであることを明かにすることが出來るのであります、今日失業者が出て居ると云ふことは、實は働く意思を持つて居る、働く能力を持つて居る者に仕事を與へないと云ふ社會の責任であります、是は社會の平和と幸福と秩序を維持する所の責を負はれて居る政府の責任と致しまして、失業問題に對しましては深甚なる注意を拂ひ、是の解決策を講じなければならぬのであります、それ故に私は政府當局者に問ひたいのであります、一、失業者は今日日本に何人あるのか、二、如何なる状態に置かれて居るか、三、從來失業問題に對しまして政府は如何なる處置を執つて來たか、更に今後此失業問題の解決の爲に政府は如何なる政策を爲さんとするか、此四點に付きまして御答辯を要求する者であります、次に對

支出兵に關しまして質問致したいのであります、昨日の首相の演説の中にも在留同胞の生命財産の保護と云ふが爲に出兵したと言つて居りますが、吾々は俄にそれを信ずることが出来ないであります、それは實に日本國民全體の利益と幸福とを、一部資本家の利益の爲に犠牲に供して居るのではないかと思ふのであります、何故私はさう言ふか私は日本の現狀に於きましては、支那に對しましは善き隣の人でありたい、善き隣の人でありたい、善き隣人である爲には、支那に對しましては、常に吾々は温かい同情を持つて臨まなければならぬのであります、或は支那に於きまする我國の同胞の生命及財産が危くなつたと云ふことを以て、出兵の理由として居りますけれども、元來山東は我國の土地ではない、支那の土地ではないか、餘所の國へ行つて商賣をさして貰つて居るならば、生命財産に危殆があるならば、事件の解決まで日本の國に引揚げて來たら宜いではないか、此點に對しての御答辯を要求する者であります、其次に於きまして、選挙干渉に對しましては色々の方々に依りまして既に多く述べられたことでもありますから、私は繰返して申さないのであります、別けても足尾に於きまする麻生久氏、或は三土藏相と對立關係にありました所の香川縣に於ける、吾々と同じ關係に置かれて居ります

る所の舊勞農黨の黨首大山氏に對しまする彈壓、是は如何なる理由に依つて爲されたのであるか、更に過去の選挙中に於て神奈川縣第二區に於きましては、私の聞く所に依りますると、鈴木内務大臣は或る候補者の應援演説に於きまして、無産黨は露西亞から金を取つたと言ふことを言明して居るのであります、若し無産黨が露西亞から金を取つて居りまするならば、鈴木内務大臣は其自分の責と致して、其職權に依つて先づ處理しなければならぬ筈であります、吾々は斯様な事實の絶對に無いことを信じて居るものであります、絶對に無いことを——徒に選挙に於ける政府の與黨の方が、益々不利になつて來たことに血迷つてしまつて、斯様な事を言つたのでないかと思ふのであります、此點に對しましては特に内務大臣の御答辯を要求するのであります、諸君最後に田中總理大臣及内閣の諸公に對しまして、私は言ふのであります、私は此帝國議會が始まつて以來、初めて無産大衆の眞の代表者として此議會に臨むことが出來たのであります、即ち私の茲に内務大臣、總理大臣其他に對する質問は、單に西尾末廣が問うて居るのではない、實に國民の九割五分を占むる所の勤勞大衆が、私の口を通じて質問して居るのであります、私は此無産大衆の質問に對しまして、内閣の諸公は單に形式的のお座なりの胡

麻化し的の答辯ではなく、具體的にさうして親切に、答辯されんことを希望するのであります、今日日本の無産大衆は、尙ほ議會を通じて無産大衆の生活改善が出来るであらうことを期待して居るのであります、吾々が初めて議會に臨んで見て、吾々の望んだ、而も吾々の國政を是から料理して行く所の議會なるものは、極めて出鱈目な、不眞面目なものであると云ふことを、吾々一般無産大衆に示さしむることのないやうに、此無産大衆の質問に對して最も眞面目な最も親切な御答辯を要求するのであります(拍手)

——(國務大臣の答辯以下略す)——

### 伊藤内閣一覽

#### 第一次 伊藤内閣 (自明治十八年十二月至同二十一年二月)

外務 (井上馨)  
 大隈 重信  
 内務 山縣 有朋  
 大藏 松方 正義  
 陸軍 大山 巖  
 海軍 西郷 從道  
 司法 山田 顯義  
 文部 森 有禮

農商務 (谷 干城)

(土方 久元)

逓信 黒田 清隆

榎本 武揚

#### 第二次 伊藤内閣 (自明治二十五年八月至同二十九年八月)

外務 (兼西園寺)  
 陸奥 宗光  
 内務 (井上馨)  
 野村 靖  
 (兼村 芳川)  
 板垣 退助  
 渡邊 武  
 松方 正義  
 渡邊 武  
 大藏 (松方正義)  
 海軍 (兼山縣)  
 大山 巖  
 西郷 從道  
 司法 (山縣 有朋)  
 文部 芳川 顯正

農商務 (後藤象二郎)

逓信 榎本 武揚

拓殖務 高鳥綱之助

#### 第三次 伊藤内閣 (自明治三十一年四月至同三十一年四月)

外務 西園寺 公望  
 内務 芳川 顯正  
 大藏 井上 馨  
 陸軍 桂 太郎  
 海軍 西郷 從道  
 司法 曾淵 荒助  
 文部 (西園寺公望)

農商務 (伊東巳代治)

逓信 金子堅太郎

末松 謙澄

#### 第四次 伊藤内閣 (自明治三十三年十月至同三十四年五月)

外務 加藤 高明  
 内務 未松 謙澄  
 大藏 渡邊 國武  
 陸軍 桂 太郎  
 海軍 山本權兵衛  
 司法 金子堅太郎

農商務 (松田 正久)

逓信 林 有造

原 亨

大日本帝國憲法(抜)

第二章 臣民權利義務

- 第十八條 日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル
- 第十九條 日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應シ均ク文武官ニ任セラレ及其他ノ公務ニ就クコトヲ得
- 第二十條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス
- 第二十一條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納稅ノ義務ヲ有ス
- 第二十二條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居住及移轉ノ自由ヲ有ス
- 第二十三條 日本臣民ハ法律ニ依ルニ非ラスシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナシ
- 第二十四條 日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハル、コトナシ
- 第二十五條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其ノ許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及搜索セラレ、コトナシ
- 第二十六條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ秘密ヲ侵サル、コトナシ
- 第二十七條 日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サル、コトナシ  
公益ノ爲必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル
- 第二十八條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス
- 第二十九條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集會及結社ノ自由ヲ有ス
- 第三十條 日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ請願ヲ爲スコトヲ得
- 第三十一條 (略)
- 第三十二條 (略)

昭和三年十月十八日印刷  
昭和三年十月二十六日發行

「偉人伊藤公の理想與附」  
定價金五拾錢

著作  
所權有

著者 佐藤板治  
 發行者 東京府豊多摩郡中野町上町二八一〇 西村京一  
 印刷者 東京市神田區西小川町二丁目六番地 青木音吉

發行所

南歐社

東京市小石川區戸崎町六十三番地

取次店

東京、神田 巖松堂書店

振替口座 東京六〇二二六番

(刷印所刷印社成大)

